

2014年11月21日(金)・22日(土)・23日(日)開催

市制施行60周年記念/ 府中市女性センター設立20周年記念/ 男女共同参画都市宣言15周年記念

第28回府中市男女共同参画推進フォーラム

第28回 府中市男女共同参画推進フォーラム記録誌

目 次

【あいさつ】

府中市長あいさつ	高野 律雄	1
実行委員長あいさつ	藤田 恵美	
女性センター登録団体連絡会会長あいさつ	安部 まゆみ	

【グリーンプラザ開催イベント】

★育メンで男を磨く！★登録団体発表会★作品展示・販売★抽選会	2
★基調講演『男女9名が語る府中の未来』	4

【女性センター開催イベント】

講演

『何度も聴きたい青木悦講演会』	青木 悦	10
『まさに必要なモノやサービスの起業でまちを元気に』	藤木 千草	12
『仲間と始める地域協働ビジネス』	大澤 靖子	14
『ライフスタイルにジェンダー視点を』	良 香織	16
『府中の中で仕事を作ろう！』	太田 殖之	18
『産む、産まない、生まれる命を考える』	柳原 良江	20
『理系女性のワークライフバランス』	大津 直子・藤田 恭子	22

ワークショップ

認知症予防ネット東京府中／ものづくりの輪プロジェクト／	23
スミワークス／洋裁クラブ・ソーイングクラブ	
古布あそび／チョウールウール／ベビーマッサージサロン tete／ラウレア手芸部	24
日中交流講習会／渋／苹果の会／おはなし夢くらぶ	25
親子ワーク／ポッポの会／つくしの会／ウィメンズアクション府中	26
パソコン連絡会／NPO法人けやきの会／夢ボックス／和文化研究会倶々楽	27

会場風景	28
------	----

府中市男女共同参画推進フォーラムとは・広報活動の記録	29
フォーラム開催の歴史	30
参加・協力団体	31
フォーラム実行委員から一言	32

フォーラム実行委員会等開催記録
男女共同参画都市宣言／奥付

府中市長 高野 律雄

本日は府中市男女共同参画推進フォーラムへ大勢の皆様にご参加を頂きまして誠にありがとうございます。

この催しは、男女共同参画社会の実現のため、あらゆる分野における男女共同参画を進めるための学習の場として、地域の人々が出会い、意見を交換し、行政とともに問題を認識し、解決に向けて歩みだす「きっかけの場」として活用されるよう、毎年開催されておりました、今年で 28 回目を迎えます。このように、知恵と工夫を凝らしたイベントを長く続けてこられましたのも、藤田委員長をはじめとするフォーラム実行委員会ならびに登録団体連絡会の皆様方のご尽力によるものでございまして、深く感謝申し上げます。

今年は、「伝えあおうよ 私たちの未来」をテーマに、様々な講座等が開催されておりますが、この後、この会場におきまして、宮浦 千里氏をコーディネーターとして、また様々な分野で活躍されております 9 名の方々をお招きし、基調講演「男女 9 名が語る 府中の未来」が行われます。その他の講座につきましても、男女共同参画について改めて考える機会としてご参加いただければと存じます。

本年は、市制施行 60 周年、女性センター設立 20 周年、男女共同参画都市宣言 15 周年という節目の年を迎えました。今後も市民のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、お集まりの皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたしまして、市長の挨拶とさせていただきます。

第 28 回府中市男女共同参画推進フォーラム実行委員長 藤田 恵美

本日はお忙しい中、フォーラムにご参加くださりまして誠にありがとうございます。

今回、展示部門は 11 月 15 日から 23 日まで、発表部門は今日 21 日と、22 日、23 日の 3 日間を女性センターで、また 22 日午後はグリーンプラザでの開催となります。参加は 57 団体で、女性センター登録団体だけではなく、市内で活動する 9 つの団体が参加されています。そのほか企業等からご協力頂きました。

基調講演はこれまで男女共同参画に関わる有識者の講演会形式でしたが、今回は色々な分野で活躍されている市民 9 名の方々をお招きして、ご自身の体験談や未来への思いを伺います。是非、足をお運びください。

さて、世界各国の男女格差を測るものにジェンダー・ギャップ指数がありますが、世界経済フォーラムが発表した 2014 年度版ジェンダー・ギャップ指数で、日本は 142 カ国中 104 位でした。女性が政治に参画する率や企業などでの意思決定ができる要職につく率の低さが大きく影響しているものと思われます。このフォーラムを皆様方が女性問題について考える場、気づきの場としていただければ幸いです。

この日を迎えるにあたって、ご協力頂いた登録団体・市民ボランティア・女性センターの方々、そしてフォーラム実行委員に感謝申し上げます。

平成 26 年度女性センター登録団体連絡会会長 安部 まゆみ

府中市が男女共同参画都市宣言 15 周年の今年に、第 28 回目このフォーラム開催のため、登録団体の様々な発表を、フォーラム実行委員の方々が素晴らしいかたちにまとめ上げて頂いた事に感謝しております。

支える喜び、支えてもらう幸せがわかる人々に関わり、集うフォーラムです。何と素晴らしいことでしょうか！これこそが美しく、芸術性を含み人間の成す業だと、私は思います。

対照的に、社会に於ける“女性問題”があり、その存在に気付いてもらおうという側面を女性センターは持っています。そのことをふまえながら、来場する方々が有意義な時間をすごしていただけたらば何よりです。

最後に オバマ大統領の決め台詞 “We can do it!”

私たちも未来を広げるために胸を張って “We can do it!”

伝えあおうよ 私たちの未来

周年記念イベント：11/22（土）府中グリーンプラザ けやきホールにて
【基調講演】男女9名が語る府中の未来

コーディネーターの宮浦千里さんと、府中市民9名の方々に自分の活動や仕事について、また未来への思いを語って頂きました。（レポートはp4～）



ホールの玄関にはたまちゃん制作のシルバー＆ブルーに輝くバルーンアーチ。ロビーには、イクメン photo や作品展示販売のコーナーもあり、周年記念行事らしく、賑やかな雰囲気でした。



9名のみなさんの活動内容に驚きと感動が～



パパの出演に子どもたちも大興奮。応援にかけつけて、みんなと一緒にどったり歌ったり。



写真左から
中村さん、牛山さん
國京さん、鈴木さん



育メンラップに、会場からは手拍子!!



★育メンで男を磨く!

『子育て』を、『育メン』という視点から考える30分の実行委員会企画コーナー。若い人、男性にも男女共同参画に興味をもってほしい…と、育メンを公募し、クイズやラップを交えたダンスなど心はずむステージを企画しました。

◎応募してくださった4名のユニークな育メンは…

◎牛山亮太さん＝育メン公務員で、育メンネットワークを広めるべく、様々なイベント・活動に参加。

◎國京克彦さん＝我が子にとって世界で一番信頼、愛される存在でありたいと『パパ世界』を目指している。

◎鈴木昌嘉さん＝2歳・4歳の男の子のパパ、元俳優。今は子どもたちと遊ぶ時間が取れ、うれしい日々を送っている。

◎中村聡さん＝育メン M.C ラッパーで音楽スタジオ経営。出産で妻が体調を崩し、現在は1歳の長男の育児&家事を全面的に担当。

①中村さんのラップと榎本のピアノでスタート!リズムのにせてテンポよく家事や育児の気持ちを語ります。

②育メンクイズ…子供が生まれる前と後で物の見方が変わったことや、驚いたことなど子育てにまつわるクイズを育メン

たちに出してもらいました。例えば、こんな真面目なクイズも。「ここ15年で、女性は、50%から83.6%へ。男性は0%から1.89%に。この数字は为什么呢?」「正解は、育児休暇の取得率です!」なかなか変わらない日本の男女共同参画の現状です。

③育児のキーワードの質問に「忍耐」「家事・育児・いい親父」「妻への♡」「真剣さ」など実感のこもった答えを頂きました。

④育メンからの育メンキーワードを使い中村さんが、「育メンは信念!信念と言えばあと少して“新年”。“新年”を、いい感じで迎えることができますように〜!」と、出演者全員、会場の人たちも立って、手拍子言葉の掛け合いで、会場が一体となって育メンラップで盛り上がりました!

お客様の感想★もったたくさんの男性や夫にも見せたかった。★こんな素晴らしい育メンがいるんだ!と驚きました。どんどん広まればいいですね。★男女共同参画って言葉からしても堅いイメージなのに、こんなに楽しいステージで、観ている私まで巻き込まれました。大きな声を出してスッキリしました。★などのうれしい声をたくさん頂きました。

★ 登録団体発表会

『手話コーラス』 府中市聴覚障害者協会女性部
 今回は「ぶんぶんぶん」と「翼をください」の歌詞を手話で覚えてもらい、みなさんと歌いました♪手話に親しんで頂けたと思います。これを機会に手話というコミュニケーション方法に興味をもって頂けたら嬉しいです。

会場のみなさんと手話や歌で交流



『スライドショー「協働を实践した女性たち」』 府中市女性史の会（語り：おはなし夢くらぶ）

2008年に発刊された「府中市女性史」より、20周年を迎えた女性センター開所時の女性たちの行動。その後、さらに明らかにされた福祉の分野における協働を实践した女性たちが



がいました。その史実を通し、府中における女性たちの果たした役割がいかに大きかったかを、お伝えする事ができたでしょうか。そして、明日に引き継ぐ私たちが、これを学び、考え、行動していくならば、これほど幸いな事はないでしょう。

『ストレッチ体操』 3B健康体操

市制60周年の記念事業に他団体の皆様とご一緒に参加、出演できましたことを嬉しく思います。リハーサルから本番までの長丁場でしたが“ランチを楽しんだり”“達成感を味わったり”仲間と共有しあうことが出来ました。このことはひとえに、実行委員長やスタッフの皆様の大きいなる支えによるものと感謝いたします。自分の健康は自分でつくる。「骨」「関節」「筋肉」を動かし「健康で生き生きとした毎日を送ることが出来る」を目的に地域の皆様と共に、これから先も歩んでいきたいと思ひます。



揃いのユニフォームで♪

『ムービー作品「桜ほか」』

パソコン府中WPC会

楽しみながら制作しました

今回、公の場所での発表ということで、個人情報 を考慮し、お顔はお面やぼかして隠し、音楽は著作権処理済みを選びました。パワーポイントの使い方が仕事の営業でのブ



レゼンだけでなく、家庭でも楽しく使えることを観た方が実感して試してもらえたら良いなと思っています。作成したパソコンとは違う機械での発表で、フォントや改行が変わったので、今後の勉強の余地あります。

『着物のファッションショー』

和文化研究会倶々楽

参加人数17人、帯で花を表現する“花結び”の実演と、そのアレンジの帯結びをショー形式にして発表しました。楽屋に配慮していただき、準備をスムーズにすることができました。また、会場の進行の方も的確で時間に遅れることなくスタンバイでき感謝しております。発表は、皆様に心温かい拍手を頂き、練習も報われ、ありがたい気持ちでいっぱいでした。もっとたくさんのお客様に見て頂きたかったなと感じました。



音楽に合わせて舞台に帯の花が咲いていきます



★ 作品展示・販売



(左) 風船のたまちゃんのバルーンアート



(右) ハンドメイドマルシェ in Fuchu. 市内在住作家の作品 アクセサリー、編み物、陶器など多彩なジャンルが勢揃い

★ 抽選会



企業・団体にご協力いただいた抽選会

基調講演『男女9名が語る府中の未来』

小久保早苗 フラワーデザイナー

野川豊子 府中国際交流サロン実行委員会副会長

成松文明 学校法人山縣学園北山幼稚園教諭

土屋真理子 就労支援施設コットンハウスフレンズ所長

藤井由紀子 企業組合ワーカーズコレクティブ梶もあ理事

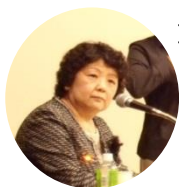
加部藤大 ソニー生命株式会社東京中央ライフプランナーセンター第1支社営業所長

高野佳子 保護司

藤井麻由美 ママエスティアシスト協会くにたち地域コラボ運営役員

矢島千里 国連ウィメン日本協会アドバイザー・歯科医師

コーディネーター 宮浦千里 (大)東京農工大学副学長・女性未来育成機構 機構長



コーディネーターを務めます宮浦千里です

本日は9名の皆様からお話を頂く前に、私から話題提供をしたいと思います。

昭和50～60年、日本では20代後半から40代の女性の4割ほどしか仕事をもっていなかったのですが、今はその数が7割に増えています。それでもまだ、出産、子育て期には仕事につきにくい現状があります。男性はわずか数%しか育児休業をとらないこと、また様々な雇用形態の問題、正規・非正規等の問題を抱えています。

女性管理職の割合が日本は非常に低くて、欧米諸国などはほとんど男女の差がありません。日本の民間企業の部長や課長において女性の占める割合は、ほんの数%にすぎないのです。また、国家公務員の役職別の女性の割合は係長くらいまではまだいいのですが、本省の課長や室長級になりますと、数%しかないのです。それに、大学も含めて女性の研究者をみますと、諸外国では30%ないし40%のところ、14%で、先進諸国において日本が最下位です。こういう結果については、家庭・育児と仕事の両立が難しい、職場環境が整っていない、労働時間が長い、ロールモデルがない等の理由があります。

第三次男女共同参画基本計画は平成22年に閣議決定されて、あらゆる分野で2020年までに指導的地位の女性を30%にする目標を掲げています。内閣府は男女共同参画の様々な情報を国民と共有するため「見える化」サイトを立ち上げました。また、第四次科学技術基本計画で理系女性の進出が少ないところを強化していくこと考えています。

府中市につきましては1986年「府中市婦人行動計画」に端を発し、1999年「府中市男女共同参画都市宣言」を行いました。2007年から今年度にかけて「第4次府中市男女共

同参画計画」が実施されています。その中で審議会等の委員の男女構成比をそれぞれ30%以上にということで動かれています。これからは様々な情報共有と意識改革で、まちづくりの中に「男女共同参画」というキーワードを入れていく必要があると思います。

次に東京農工大学の取り組みについてご紹介いたします。平成18年から様々な事業を実施してまいり、国のレベルで男女共同参画を推進している大学として認知されています。女子学生が占める割合は農学部40%以上、工学部20%以上と随分と増えております。また、女性教員は、ほんのわずかでしたが、増やしてまいりまして、12～13%という状況です。また、出産、育児にかかわる教員については仕事をサポートする人を雇ったり、大学独自の保育所を設けたりと支援を行っています。現状、出産を機会にやめる女性の教員はゼロとなっております。

それでは9名の市民の皆様にお話して頂きます。



ラ・フルール・アンジェリック代表の小久保早苗です

私は、府中市内で、お花の教室を開講しています。

お花はOL時代、ストレスで悩みを抱えていたとき、習い事として始めました。いわゆる癒しですね。しかし、趣味ではなく、資格を取得し、仕事にし「こんな生き方もあるんだな」と思ってからは世界が一変しました。お花の仕事はライフスタイルが変化しても自分のペースで内容を変えていくことができます。例えば、子どもが小さいうちは自宅でアットホームなレッスンに、落ちついてからは、また精力的に活動することができる。そんな仕事だと思っ

ています。

「お花と共に癒しある暮らし おしゃれなライフスタイルを」を教室のコンセプトに活動して4年。所属する協会の本部講師もしています。また、フラワーデザイナーとして百貨店などへの販売活動も積極的に行っています。販売が大好きで、新卒で百貨店に入社した私。今では自分の大好きなお花を、自分のつくったお花を喜んでくださるお客様に届けることが出来る、そんな機会が大好きです。先日の府中マルシェでは、たくさんの皆様に販売やレッスンをさせて頂きました。これからも何気ない毎日にお花の彩りを加え、家族で癒される空間の提案が出来たらと思っています。

私自身、自分らしさを生かした仕事で家族を大切にしつつ、自立したい、社会参加したいと願っています。「好きなことを仕事にして、社会参加する」素敵なことだと思いませんか。あともう一步踏み出せないと悩んでいる方がいらしたら、最初は誰でも自信がないかもしれませんが、一步踏み出す勇気さえもてば、きっと未来は変わると思えます。私は師事している先生から「失敗したら柔軟に軌道修正をすればいい。それができれば失敗を恐れることはないんだよ」と背中を押してもらった一人です。女性のクオリティオブライフの向上、すなわち生活の質の向上とは、どれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生の幸せを見出すために、仕事と家庭を両立させる新しい働き方が求められているのではないのでしょうか。



国際交流サロンで15年ほどボランティアをしています野川豊子です

国際交流サロンはこのグリーンプラザから甲州街道を渡ったところにある第二庁舎の3階にあります。120名ぐらいのボランティアがいて、約70%が女性です。そこは府中市に住む外国の人が日本語を学ぶこと、府中市民として生活ができるようになることを手助けする場所です。

例えば分からないことを聞くときには「すみません」と声をかけ、教えてもらったなら「ありがとうございます」と笑顔で言いましょって話します。笑顔が大事ですから。「おはようございます」「こんにちは」という挨拶は地域に溶け込む第1歩だと思います。外国人のお母さんにとって、日本の学校や幼稚園からの手紙を読むのは難しいですね。「空き箱を持ってきなさい」「袋を縫ってください」と書いてあったら、言葉の意味だけでなく、その内容も説明しています。

外国の人に生活に根差したお手伝いが必要だと感じるの

は、私が外国に住んで困った経験があるからです。子どもが小学生の頃、アメリカに8年いました。運転免許が取れるまで、子どもの送り迎えに自転車と歩きで、毎日、家と学校を2回往復していました。あれはハロウィンの日でした。自転車にくくりつけたバスケットに大きなカボチャを2個も入れて学校まで子どもと一緒に歩いたのですが、それを見た方から「明日から、あなたのお子さんの送り迎えをします」と書いた手紙をもらったのです。もう涙が出てしまうほど嬉しかったです。日本人だけで固まっていたら誰も協力してくれません。その国に溶け込むということがとても大事だと私は思います。

日本で、府中で、外国の人が入っていけるように、皆さんが協力していただければ、とても嬉しいです。

一緒にボランティアをしている人から「親の介護が始まったからやめたい」と相談を受けました。「介護だけしては煮詰まってしまう。日本語を教えることが楽しかったら、ここはあなたのオアシスです」と話しました。彼女はやめませんでした。今も楽しく続けています。ボランティアにとってオアシスですし、来られている外国の人にとってもほっとできる場所だと思います。

どうぞ皆さんも、楽しく何かしらボランティアをして頂きたいと思います。



北山幼稚園教諭の成松文明です

私が先生になりたいと思ったきっかけは、学校の先生の影響が大きかったです。それまでは漫画家になりたいと思っていました。

幼児期、両親が働いていたため、4つ違いの弟と2人、母方4人のおばやおじから子どもや孫のように育ててもらいました。特におじたちの私たちに対する関わり方が、私の子ども好きに影響しているように思います。

昔から音楽と体育が苦手で非常に困りました。今も困っていますが、泳げなかった自分が泳げるようになり、また運動の授業を行うなど苦手なことに挑戦しながら、これまで3~5歳の子どもたちと関わってきました。

1歳8カ月になる娘がいます。時間があるときはご飯を食べさせたり、おむつをかえたり、公園に行ったりしながら、娘の笑顔に元気をもらっています。幼稚園という職場で働くことで、自分が子育てを抵抗なくできているとすれば、本当にありがたいことだと思います。また妻も同じ職場で働いていたために、家事など、やって当たり前という感じが強いです。

子どもたちに自分の気持ちを言葉にして伝えること、ごめんなさいが言えることを大切にしてきました。娘に対し

でも同じように心がけていこうと思っています。

幼稚園という職場にいて、女性の力というのは凄いなど感じさせられます。また、働きながら子育てをするのは本当に大変で、職場で両立をしている同僚を見ると凄いと感じます。私はのめり込んでやっていると周りが見えなくなってしまうたり、保育や子育ての中でうまく叱れなかったりしてしまいます。その点、**女性の方は常に色々なことに注意を払われていたり、きちんと叱ったりできるように感じます。**

最近男性の実習生が来ることも増えてきました。嬉しいことですが、自分自身、向いてないなど悩んできましたので、保育や子育てという面では男性は大変なのだと思います。園長先生がよく話されることは、「1人を大切にする」ということです。いつもお叱りを受けるばかりですが、女性に負けないようにこれからも精いっぱい努力していきたいと思っています。



コットンハウス、フレンズの土屋真理子です

私は府中生まれの府中育ちです。20代の頃より精神科看護を志し、市内の精神科病院で13年働いていました。仕事を始めて10年たった頃から、快復しているのに退院ができないという社会的入院をされている患者さんが大勢いるのはなぜなのかを知りたいと思いました。地域の精神保健福祉についての講演会や学習会に出かけたところ、退院後の患者さんの受け皿となる社会資源（日常生活上の精神障害を抱えている人たちの問題を解決する福祉サービスの総称）が大変少ない現状があることがわかりました。当時、日本の精神医療及び精神保健福祉は欧米より30年以上遅れていると言われていました。

その後、保健所、新設の小規模作業所、グループホーム（精神）の世話人を務めた後、いったん仕事を辞めました。10年の間、仕事・結婚・家事・子育てに追われ、自分を振り返る時間が必要だと思ったからです。その頃、府中市女性センターが開館したのです。それまでは、保育園や学童等で働く女性ばかりと関わっていましたが、女性センターでは様々な女性問題に真剣に取り組んでいる女性たちに出会いました。それまで、女性・母・一人の人間として自信がなかったのですが、色々な学習を通して、徐々に自分を肯定出来るようになりました。

そして、府中市の推薦で海外派遣団員の一人として香港の福祉局へ行った際、障害者も社会貢献するよう謳われ、就労支援施設で充実した訓練が行われていました。就労率が70%から90%と日本では考えられない就労率の高さに

驚きました。

その後、北海道の浦河で活動している『べてるの家』を知りました。精神障害者の当事者が起業し、年商1億円の収入を得て、当事者が助け合いながらグループホームで暮らしていました。当時、精神保健福祉の分野では、その斬新な活動は知られていませんでしたが、日本でそのような活動をしている人たちがいることに感動しました。府中のまちで当事者が主体的に活動できる場があったらと強く願い、多くの賛同者や協力者のお力沿えを頂いて、現在の就労支援施設（精神）の前身の『コットンハウス、フレンズ』を始めることが出来ました。

今、日本の精神保健福祉は岐路に立っています。今も、世界の精神科病院にあるベット数の5分の1は日本にあるのです。日本の病院の状況を変えることはなかなか出来ませんが、地域の中で退院を促進させよう、地域に退院した方を定着させようと願う当事者・家族・支援者が大勢います。今後も多くの仲間とともに精神保健福祉の分野で頑張っていきたいと思います。



仕出し弁当「椀もあ」を運営している 藤井由紀子です

美好町二丁目にあります「椀もあ」は「ワーカーズコレクティブ」です。仲間づくりをして、**みんなでお金を出し合い、そして事業を運営し労働していく、そういう働き方をしています。**生活クラブ生協の組合員14人で立ち上げました。生協では安全な食べもの、つくり手の見えるものということで繰り返し色々な情報を知らされていますので、食べものへの安全性ということには一番こだわっております。そういったものを使ってのお弁当づくりをしたいという思いをみんなで一致することができました。起業するという事で、1人30万円のお金を出し合いましたが、それだけではとても事業は立ち上がりません。それに昨日まで主婦をしていた私たちには融資制度は使えませんでした。また店舗として、いい物件があっても契約にはこぎつけないという大変な壁にぶつかってしまいました。仲間たちでつくっている協同組合の名前でお金を融資してもらったり、またお店は夫の名前で契約を行い、やっとスタートに立つことができました。

「椀もあ」では毎月会議を行い、その月のメニューの反省、日々の運営上の問題などをみんなで話し合っています。また、営業活動として、お弁当とチラシを持って、2人1組で市内へ散らばっていきます。お弁当を知って頂きたい、食べて頂きたいという一心でピンポンって会社訪問をする

わけです。それでどうかするとその日のお昼からほしいなんて注文がもらえたりもしました。素人ながらも始めて来年で20年を迎えるのです。

府中は、高齢化率が20%を超えました。そのせいか、配食サービスを利用する方が増えてきています。「腕もあ」では社会福祉協議会から夕食配達を委託されています。そして今年から腕もあの事業としても夕食配達を始めました。

これまで20～30歳代の方が一時期働いて手伝ってくることがありました。外で働けないというハンディをもっている人たちが「腕もあ」で働くことで、次のステップを踏んで社会に出ていくことができるような状況を私たちは見えています。とても嬉しいことです。こうした、若者が一つひとつのステップを踏めるような、また、高齢者の見守りのような部分、**大きな企業や事業者ではできない、そうした事業をワーカーズコレクティブで担うことは、これからの府中の中で私たちの生活を豊かなものにしていくと考えています。**



保険会社で営業所長をしております 加藤 隆大です

私は営業職をもともと7年半やっております。課長を経て現在の役職についています。仕事は採用と育成になります。もともとソニー生命という会社は今から35年前に出来ました。当時は全員男性の営業マンでスタートしております。ただ今では**積極的に女性の採用を行っています**。理由としましては、**女性もつ繊細さだったり、あとはお客様からの要望で「女性の方に来てほしい」**であったりなど、そういったことが最近多いのです。それで「ウーマンプロジェクト」をつくって女性を積極的に登用しようという動きになっています。

それと、育成の方法なのですけれども、男性と女性ではちょっとやり方を変えていまして、女性の場合は何か悩みがあったりすると、それはすぐに仕事に影響が出ます。行動をとめる要素になりますので、色々な話を聞くということをしております。男性の場合には理念で説いて、目標、数字をもたせるなどしています。このように、関わり方を男性、女性で変えるようにしております。

是非これからも女性の方には積極的に社会に出て、活躍して頂ければと思います。



保護司をしております高野佳子です

皆さん保護司ってご存じですか。聞なれずちょっとぴんとこないかもしれませんね。法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員です。お給料は出なくてボランティアなのです。保護観察官と二人三脚あたり、地域の中で**犯罪や非行をした人の再犯を防いだり、立ち直りを助けたり**しています。「社会を明るくする運動」や学校と連携を図ったりして、地域の犯罪や非行の予防を図る活動も行っています。

府中で代々続く家の長男である夫と結婚しましたが、私は千住生まれの江戸っ子で、府中の環境とは少し違いました。祖母、夫の両親、夫と私、娘たちと4世代が同居していた頃、父は町の会長職でしたので、家にはとてもお客様が多くて、毎日家事、接待であつという間に時間が過ぎていきました。でも、それが当たり前「本家の嫁は仕方がない」と思っていました。

私が保護司になったのは38歳の時でした。犯罪や非行をした若い人たちの相談相手になりました。家族のことや友人関係、学校のこと、就労のこと、生活状況などを聞き、まず頑張ったことを探して褒め「でも、ここはこうしたほうがいいよ」と助言したりします。大体月2回、私の自宅と相手のお宅で面接をします。約束の時間に来てくれなかったり、すっぽかされたり、再犯をして捕まってしまうこともあります。無事に終わり、仕事など真面目に継続できるようになったときが一番の喜びです。いつも「同じ過ちをしてはもうだめよ。私のところにはもう来ないでね」と思っています。

それから更生保護女性会にも入りました。全国組織で、19万人ほどの会員がいます。府中では約400名の会員が在籍し、保護司会と車の両輪となって活動しています。

更生保護施設のサポート活動、矯正施設への行事参観、子育て支援活動など、女性の視点に立って、母心の気持ちをもって行っています。犯罪や非行をした人のほとんどは社会に戻ってきます。彼らが自分の過ちと向き合い、再犯をしないよう立ち直りを応援するボランティア団体なのです。

先ほどもお話しましたように38歳で保護司をお受けして初めて家から外に出たようなわけです。ですから、人との関わりや色々役立つことが嬉しくて、また多くの学びもありました。今後も頑張っていきたいと思っております。





“ハンドエステでまちづくり”がミッション の藤井麻由美です

地域活動をしています。杉並を中心に、国立、多摩市・・・一昨年からようやく府中にご縁が出来ました。

ハンドエステは、10年前、都立府中療育センターの言語聴覚士の先生から、障害を持つ方の為のリハビリプログラム作成を依頼され、下北沢にあるエステサロンの先生が創りました。私の恩師です。言葉で伝えるのではない、心で聞こうとする、触れるコミュニケーション。じっくり向き合いながら行います。脳細胞の活性化に手のスキンシップはとても効果があり、心が安らぐこともわかってきました。リハビリでは、誰にでもすぐ怒ってしまう方がハンドエステのときは終始穏やかで、看護師さんたちをととても驚かせました。また、団地の引きこもりがちな高齢者向け講座では、手がきれいになると「口紅を塗ってみようかしら、髪はどうしよう、身なりは？」と外へ気持ちが向かっていきました。

国立の障害者施設「あすなろ」、国立や杉並のNPOなど、ハンドエステからどんどんご縁が広がり、中間支援組織「くにたち地域コラボ」の運営役員をしています。今後は家庭円満講座を開催してみたいと思います。

府中で活動する場合は団体として登録をするのが基本なので、私のように「個人活動」はとても難しいです。個人活動者への情報提供のシステムがあったらいいなと思います。

杉並で「聴き合い」のワークショップ「100とも」を毎月開催している若者たちがいます。参加者は小学生から80歳の多世代、満席です。「他者との違いを楽しみ、受け入れましょう『なぜ』は相手との距離をぐっと縮める魔法の一言」を掲げて、年齢、性別、国籍、職業などを越えて、参加者がイキイキと語り合う姿に驚きました。府中にお呼びしたいと思いました。ずっと人と人との気持ちをつなぐような方法はないかと探していたからです。

昨年ようやく念願が叶い、府中NPO ボランティアセンターと農工大「まちけん」の学生さんたちと一緒に「100とも」の代表の山ノ内さんをファシリテーターとして、市との協働事業「府中 de しゃべとも」を開催しました。テーマは「地元」。グループを変えながらおしゃべりをたっぷり2時間。それでもまだしゃべり足りないくらいの皆さんの笑顔。

こんな素敵なお話が府中にもっと広がればいいと思いますし、また広げていきたいと思っています。



矢島千里です。こんにちは

突然ですが、国連の中に女性の様々な問題を扱った部署があるということをご存じでしょうか。その組織をUNウィメンといい「女性たちが自由に生き方を選択でき、自己実現できる社会は男性にとっても人間らしく生きられる」という考えのもとに活動しています。私はその日本協会でお手伝いをしています。ただ実際に女性が自由に生き方を選択できるかというとなかなか難しいのが現実です。

ここでひとつの実例として私の経験を紹介します。私は府中生まれの府中育ち。小学校はすぐその一小です。ここでは男女の差別もなく、男子と一緒に泥んこになって遊んだり、取っ組み合いのけんかもしました。

ところが中学に入ると、男子が技術科でエンジンの勉強をしたり、工具を使ってギアの組み立てをしたりしているのを横目で見ながら、私は家庭科で料理や裁縫をしなければなりません。この頃の私は、バイクのメカニックになって自分のレーシングチームをつくりワールドチャンピオンシップに参戦するのが夢でしたから、とてもがっかりしました。そんな思いもあって大学を卒業して、働きながら夜間の職業訓練校に入って自動車整備士の資格を取ったぐらいです。でも逆に料理や裁縫や子育てが好きなのに断念した男子もいたかもしれません。

さらに高校に入ると、もっとがっかりすることがありました。リーダーシップがある女子が生徒会長ではなく副会長に、そして野球やサッカーが好きな女子が選手ではなくマネージャー役を買って出るなど、自ら壁をつくってもうそれに疑問すら感じなくなっているのです。そしてその壁は世界中にあり、気づいている人はいるけれど、声に出せなくて我慢したり苦しんだりしている人たちもたくさんいること、そしてその壁は「ジェンダー」と呼ばれるものと学びました。

その後、性差別のない医療系の大学を卒業し、府中市で仕事をし、子育てもしましたが、またここでも出産育児でジェンダーの壁が立ち上がってきました。そんな時、女性フォーラム(現：男女共同参画推進フォーラム)に参加したのをきっかけに、女性センター開設準備から運営にも関わって、府中市の男女共同参画推進懇談会に参画して今に至っています。

宮浦 9名の皆様ありがとうございました。なかなか1つの方向にまとめるというのは難しいのですけれども、地域における子育て、女性のライフプラン、出産と子育て、介護などの問題が社会的背景にある中で、様々な活動をして

いる、あるいは事業として立ち上げている。あるいはボランティア活動をしている。また、その活動を広げる、国際的な活動につなげる、それぞれのお立場で努力されているのだなとひしひしと感じたところです。

そこで1つの課題は男性の参加ということでしょうか。子育て中のパパや経験豊かなシニアの男性に男女共同参画事業などに数多く参加してほしいと思います。

また、フルタイムの会社員の方、男女問わず、子どもがいても無理なく活動できるような場や窓口があると、さらに広まるかなという印象をもちました。

では「未来に向けて」のご発言をお願いします。

矢島 去年の内閣府が発表したジェンダーギャップ指数で日本は136カ国中105位という恥ずかしいランクです。せめて府中市からそれを引き上げていきたい。フォーラムなど女性活動推進を進めていく施策を求めると同時に、私たち女性自身がエンパワーメントしていきたいと思います。

藤井(麻) 府中に越してきて児童館がないことに驚きました。児童館とは18歳までの子どもが利用でき、児童専門の職員がいる場所です。小学生は文化センターがあり良いのですが、中学生になると居場所が激減します。優しかった大人たちから追い出され始めます。友人の家・公園・今まで遊んでいた場所から。わが子も警察の少年課から「近所から苦情の電話があり、子どもたちを解散させました。でも悪いことは何もしていません、叱らないでください」と電話があったことを思い出します。中高生の安心安全な居場所をとっています。

高野 時間ができたら書道塾を開きたいと考えております。心のゆとりや生活の中で培われることを地域の一人として府中の子どもたちに伝えていけたらなと思っています。

加部藤 受験を控えている小学校6年生の娘がいます。彼女のやりたいことを応援してあげたい思いがあります。また、キャンドルサービスのトーチのように光をみんなに分けていって、男性も女性も一人ひとりが輝いて、府中から日本全体に光の輪を広げていければと考えています。

藤井(由) 私たち「椀もあ」では定年はありませんが、厳しい仕事の中で歳に合ったステージを次につくっていききたいという思いがあります。地域に住んでいる人たちやお年寄りの健康を考える、そして若い人たちにつなげていくよ

うな仕事を広げていくことができれば嬉しいなと思っています。

土屋 精神障害者への理解を多くの市民に呼びかけ、コトトノハウス、フレンズの事業をさらに充実させていきたいと思っています。

成松 今、幼稚園、保育園が平成27年度から新しい制度に移行しつつあります。自分自身も新制度に向けて、園内の先頭を切って、保育士の資格を取るため今月から勉強している状況です。頑張ってます。

野川 お近くに住んでいる外国の人がいらしたら「国際交流サロンへ行くと日本語が教えてもらえるよ。楽しいらしい」と伝えてほしいです。私はこれからも国際交流サロンで、楽しみながらボランティアを続けていきたいと思っています。

小久保 私は「むさし府中青年会議所」で活動しています。女性会員が本当に少なく、今90%近くが男性ですが、その中で、男性と女性が互いを理解し、ともに支え合い、府中が住みよい町になるよう活動してまいりたいと思います。

宮浦 これを機会に府中でのジェンダー指数をつくって、府中がモデルケースだと言えるように少しでもお手伝いできたらと思います。また、どんな内容でも男女共同参画について相談できる窓口や電話があると良いと感じました。

司会 ここで市長よりコメントを頂きます。高野市長、お願いいたします。

市長 地域で新しい仲間との出会いが生まれ、そして、その中でつながる。また別のグループの人たち、あるいは別の地域の人たちとつながる。今日のお話の中で私が強く感じましたのは**出会いとつながり**です。こういったことを市としても支援する、あるいはそういった場を設ける。時には私たち行政がつながる方々と一緒にマッチングをしていく。そういったことが必要かなというふうに思いました。

もう1つ、「女性センターがあつてよかった」ということです。ぜひこれからも男女共同参画社会実現のための拠点として女性センターを大切にしていきたいと思っています。

司会 皆様、ありがとうございました。

『何度も聴きたい青木悦講演会』

講師：^{あおき えつ}青木 悦
インタビュアー：藤田 恵美
企画：サークルいきいき



【講師プロフィール】

1946年高知県四万十市出身。福島在住。教育ジャーナリスト。「朝日中学生ウイークリー」「ふえみん(婦人民主新聞)」元記者。取材・執筆とともに全国各地で講演活動を行っている。著書は『アスファルトのたんぼぼ』『幻の子ども像』『子どものためにという前に』『泣いていいんだよー母と子の封印された感情』、『なぜそんなに「まわり」を気にするの?』『たいせつなことは…ー子どもと生きる「あなた」への手紙』など多数。

藤田 子どもの頃のお話から伺いたいと思います。

青木 私は昭和21年に高知県の中村で生まれました。兄と妹がいます。戦後社会に溶け込めず、お酒に逃れた父に殴る蹴るの暴行を受けました。児童虐待や、長いこといじめを受けてきたり、不登校を責められたりした子どもに取材で出会ったとき、何となくピタッと会話ができてしまうのは、自分のそういう生い立ちがあったからだと思います。

父は私が結婚した途端に手を上げなくなったので「どうして殴らないの?」と聞いたら「おまえは青木君のものになったから、もう殴れない」と。それに「何でお兄ちゃんは殴らなかったの?」と聞くと「跡取りだから」と言われました。私たちは父の持ち物だった。女性であるから、母と私と妹が殴られたんだと。私は父とは最後までいい関係はつくれませんでした。「もうお父様を許してあげたらいかがですか」なんて言われたりすることがありますが、許す許さないというよりも関係をつくれないうまま来てしまったのです。

藤田 お母様との関係についてお話をください。

青木 子どもの頃、母が背中中で父の暴力を受けて、その母に抱かれていた温もりを財産みたいに感じていました。その母と亡くなる10年ぐらい前に義絶状態になりました。義絶といっても、情報は兄妹から入ってきましたけれど。

中学生の時、母から「離婚はしない。すれば、あなたたちに不利だから」と言われたので、私は、私たちがお母さんを不幸にしていると思ひ込み、それ以来、ずっと母を支えてきたつもりでした。うちの幸せのほうが優先で、自分のことはいつも最後にするということが生きてきました。しかしその後、父とはうまくいかないという私に、母は父のことをかばったのです。

その時、自分の今までは何だったのだろうという思いと母と表面的に仲よくなっても仕方がないなという思いがありました。同志になれなかったのです。私、母と。

藤田 別れてからのお気持ちはどうでしたか。

青木 ここでは話せないことがありました。すごく辛い思いを散々した後の決断でしたからすっきりしたのです。もうこれで私は、夫と子どもという自分の家族を優先して生きることができる。

藤田 決断をきっちりなさったということですね。

青木 そうです。『泣いていいんだよ』という本に書いた自分の生い立ち、親との別れというところに当時30~40代の人たちから「私も自分の親に無視されたり、放り出されたりした」とか、「過剰な期待をかけられて一生懸命頑張ったのに母親から『あんたなんか何にもできない』と言われた」などという内容の手紙を受け取りました。1960年終わり頃から子どもをいい学校に入れたら、いい暮らしに直結すると信じて、親たちがそっちに向かいました。そういう時代背景があるのです。その中で育った人たちが子育てを始めたときに、特に私が感じたような部分をわかってくださる方が多くいました。

そして私が実行したことをお伝えしたのです。大学ノートを用意しまして、左側のページに母に言われて傷ついたこととか、父のことは殴り方まで書きました。あの日はこんなふうに蹴ったとか、あの日は私が止めに入ったら蹴飛ばされたとかを書きました。それで右側にはそのことがどういう意味だったのかを本で知ったり、考えたりしたことを書いていくという作業をしました。そういう中で、何となく客観視すると言えいいのでしょうか、自分の生い立ちを。それができるようになったときに、ちょっと楽になりました。

藤田 一度振り返るといふことが必要だということですね。それでは、次に結婚、子育てについてのお話を伺いたいです。

青木 1年間ですけれど専業主婦の経験があります。専業主婦を体験しないまま、新聞記者として教育問題を追い、本も書いて、子育てもしてなんて言っていたら、気がつかない問題が横たわっていました。

結婚当時、同僚だった夫のほうには配置転換が来なくて、私のほうに来ました。出来たばかりの組合に訴えますと「それは当たり前だろう。男は大黒柱だけど、あんたは女房だから」と言われ、その日はポロポロ泣きながら帰り、すぐに辞表を出しました。

仕事を辞めてから、子どもができていくということがわかり、それなら生んでから再就職を考えたほうがいいのかと思いましたが、これがすごい落とし穴だったのです。お産とか子育てとかは何万年も女たちがしてきたことなのだから、そんな大変なはずがないと。今思うと、何も知らないということは怖いと思いました。

自分で言うのも何ですけど、結構完全主義なのです。とことん調べて、わかったと思うことしか書かないということでやってきました。それがそのまま専業主婦に向かったというか、なったと思ってください。赤ん坊を育てながら、家の中ピカピカにするのです。汚れているのが許せないのです。そうしたら子どもは一番泣いてほしくないときに泣くし、汚してほしくないところを汚す。子どもを怒りそうになったりしたのです。

ある時、子どもが高い熱を出しました。私は心配で、ずーっとぐるぐる家の中を歩いていたのです。その日の夜中、夫は酔って帰ってきて「明日仕事だから」とすぐに寝てしまいました。私は立ったまま寝ている夫の口にウイスキーをどぼどぼと入れました。夫がゲホゲホといいながら起きてきて「どうした！」と言うわけです。私はこの数カ月間、本当につらかったなどを朝が明けるまで話しました。私は初めて、子育てがどんなに切ないものか、それから忙しいものか、身体がもたない、心もどんどん辛くなっていくものかというのを一生懸命しゃべることができたのです。夫は「僕はいつも君がにこにこ笑って見送ってくれるから、女の人は子どもを産んだらそれだけで幸せなんだと思っていた。でも話を聞いてよく分かった。俺があんたより勝るものがあるとしたら体力だ。夜中のミルクは俺が全部やる。買い物もする」と言って実行してくれました。夫とは本音が言えなかったら、もう一緒にいる

意味はないというふうに思っていました。本音を言わなくても分かりあえる人はいいと思うのですが、正直に話さないと分からない相手だったから、正直に言いました。ときにはもめることもありました。

藤田 長寿のため、夫婦は一番長く付き合うことになりますが、価値観が違う場合、夫婦間ですり合わせる必要はあるでしょうか。

青木 そうですね。例えば選挙の時にどの党に投票するかは私が大事にする価値観です。そこは夫とぴったり一緒です。でも、子どもを育てていく中では、いっぱい違いが出てきました。そこは全部もめました。

例えば、夫はスポーツは1つ選んだら男の子は最後まで1つ、同じスポーツで行くべきだという体育会系です。私はそういうのは全然ナンセンスだと思うのです。だからもめてきたのですけれども、無理に一致させなくていい気がします。価値観は、夫とすり合わせる必要はないと思います。



《青木さんからのアドバイス》

*今、2人目を産もうかどうか悩んでいる人へ

・出産は女性の基本的な権利です。自分が望まないのに周りのために子どもを産んだりすると、あとで後悔することになります。一人っ子でマイナスということはないと思います。

*父や母と確執がある人へ

・小さいころ辛い思いをさせられた父親に大人になってからもひどい態度をとられ大変でした。知り合いとかを通して関係をつなぎながら、ふだんはつき合なくていいと思いますよ。あなたがしんどいと、子どもさんに影響しますから。

・娘が子どもを産んで幸せそうなのを見ると、自分の場合は大変だったのに嫉妬する母親がいます。本音が介護のときに出てしまうと大変。どういう母親か分かった上で自分に正直に生きてほしいです。

・母親にあなたの気持ちを話しても分かってくれなくて、よけいにあなたが傷ついたりします。だんだん距離を置いていくほうがいいと思いますよ。

他にも子育てに関する質問等がありました。

『まちに必要なモノやサービスの起業でまちを元気に』

ふじき ちぐさ

講師：藤木 千草

企画：日本婦人有権者同盟府中支部



【講師プロフィール】

国分寺市在住

1989年 生活クラブ生協の「仕事作りワークショップ」に参加
市民参加のコーディネートや編集などが仕事になることを発見

1992年 WCO生活工房まちまち設立

2010年 生活工房まちまちを発展的解散し、WCOふろぼの工房設立

2000-2006年 東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合理事長

2004-2009年 ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン (WNJ) 理事長

2007-2013年 日本協同組合学会常任理事

2009-2014年 WNJ事務局長

2014年 WCO及び非営利・協同の社会的企業等の活性化支援組織準備会設立
(WCO: ワーカーズ・コレクティブ)

あなたの夢・地域のつばやき（ニーズ）は何ですか？

ワーカーズ・コレクティブというのは自分たちのほしい機能を仕事として生み出すという風にお考えください。日頃暮らしていて、こんなものがあればいいのにとか、どうしてこういうサービスがないかなと思われることがあると思います。普通の市民が何人かが集まって力と知恵と、そして資金を持ち寄せれば、何とか事業を始めることができるという実践をしているのがワーカーズ・コレクティブ（以後WCOと略す）なのです。この概要をお知らせして自分の地域にどんなものがあればいいかということで意見交換できればいいかなと思っております。

ワーカーズ・コレクティブとは

これは協同組合の一つと捉えており、私は生活クラブ生協に入っていますが、生活協同組合や農業協同組合も協同組合です。参考資料としてレジメに載せた、協同組合が連携しているICA国際協同組合同盟というのがあり、毎年大会を開かれていて、1995年に決議した声明があります。そこの定義が「協同組合は人々の自治的な組織であり、自発的に手を結んだ人々が共同で所有し、民主的に管理する事業体を通じて、共通の経済的・社会的・文化的なニーズと願いをかなえることを目的とする」となっています。自分たちの欲しいものをつくり出す組織で、その組織の運営は民主的で自治的で自発的に行われるものということです。例えば生活協同組合というのは、自分たちが生活する中でほしいなと思うものを、みんなで開発してみんなで買しましょうよという組織という形になります。それで、WCOも同じ気持ちで、この精神で事業をしてい

るところです。

今キーワードとして出ましたように、自発的、自治的ですし、そして自分たちが欲しいもの、地域のニーズに応えることを事業として行っているものになりますから事業をする際に必要な資金はみんなを出し合い、働き方もみんな決めて全員が責任を負いながら働くという形になります。実際に、今あるWCOがみんなこの趣旨に合う経営ができていくかという、いろいろ課題はたくさんありますが形としてはそういうものだという事です。例えば、その出し合うお金というのも、各WCOによって違い、業種によってもお金のかかる所とそうでない所があったりして、少ないところは1万円ぐらい、多いところは数十万から100万ぐらい出しているところもあるかもしれません。いずれにしても、自分たちで決めていく額という形になります。

1980年のICA大会におけるレイドロー報告

レイドロー博士の「西暦2000年における協同組合」より

非営利の市民事業という形になり、この働き方が一体どうして日本で生まれてきたのかはきっかけがレイドロー報告なのです。これは今紹介したICAの大会が1980年に開かれて、そこで今後2000年の協同組合はこうあるべきだというレポートが出されました。これをまとめたのがレイドロー博士で、レイドロー報告とよくいられています。特に2000年を前にしてどうしていったらいいのかというようなことがずっと書かれています。その中でも特に、協同組合は優先してこの4つの分野、①食糧問題の取組、②人間的で有意義な仕

事場のづくり、③脱浪費社会に向けた協同の再構築、④協同組合地域社会の建設を挙げています。これは1980年、つまり34年前に指摘されたことで私はこれを色々な方にご紹介するようにしています。この危機的な状況はさらに今悪くなっていて、解決するどころかより深刻になっているなど感じます。

特に④番目の協同組合地域社会の建設は非常にユニークな点だと思えます。

地域の中にたくさんの協同組合をつくり、その色々な機能を果たす協同組合が連携することで、人々の暮らしが少しでも暮らしやすいようにしていこうということを構想していることです。例えばWCOは様々な職種があり、生活の色々な分野に対して、物やサービスを提供していますが、そういったものを地域にたくさんつくって、暮らしを支えましょうという構想。これを実践しようということで、WCO運動が始まり、この1980年のレイドロー報告を聞いて、生活クラブ生協の職員たちがこれを実践しようと始めました。

1983年にワーカーズ・コレクティブ「にんじん」が神奈川に誕生

第1号のWCOというのが、この報告があった2年後の1983年に神奈川で最初に誕生しました。「にんじん」という名前のWCOで、これは野菜のニンジンではなくて、「人人」と書き「にんじん」と聞いています。職種は、生活クラブ生協神奈川では、当時から「デポ一」と呼ばれる生協の店舗があり、運営を委託されたのがこの「にんじん」です。お店のみだけでなく、そこで弁当を作ったりします。様々な職種に広がっていき、その後、東京や千葉、埼玉でも相次いで設立され、東京では1984年に最初のワーカーズができています。WCOあるいは協同組合は、様々なニーズに応えるためのもので、生協の仕事を始め、グラフにあるように、一番多いのが家事援助、介護のWCOです。府中市にはたすけあいワーカーズ、お弁当屋さん、私自身は編集や企画や調査といったことを仕事にしている、また、保育園や一時預かり、健康体操などこのように様々な業種があります。



1995年 国際協同組合同盟 協同組合のアイデンティティに関する声明

1995年 阪神・淡路大震災

1995年7月 ワーカーズ・コレクティブネットワーク
ジャパン全国会議第2回「ワーカーズ・コレクティブの価値と原則」の発表

1998年 特定非営利活動促進法

2000年 介護保険法

働きにくさをかかえる人たちと共に働く場をつくる

2011年3月東日本大震災のあと、7月にWNJ総会でアピール文採択

- ①津波や地震による被害からの復興計画は地域主体で進めることが重要です
- ②働く場を作る方法として、出資し運営も担って働くというワーカーズ協同組合の手法が有効です
- ③食品の汚染状況の測定を徹底し公表することを求めます
- ④原子力発電をやめて、再生可能なエネルギーを使った発電システムにかえていきましょう

・国土交通省地域支援事業「大船渡市におけるまちづくり支援、生活支援のためのコーディネーター事業」
事業内容

- ①コミュニティ形成型住宅
- ②住民による起業
- ③「志」のある投資による資金的支援

・仕事おこし説明会の開催

「3人よれば何かが始まる！？働く場を一緒に作りませんか」9回開催26名参加

「移動サポートの事業化に向けて」5回開催52名参加

「福祉有償運送のドライバー資格を得る認定講習会」
開催40名受講

国からの補助金を使って、支援事業を住民の方たちの意見を聞きながら進めていきました。移動サポートや福祉有償運送の講習会も地方の不便さを解消することから始められる。教習所を借りて、講習で取得した資格で全国でどこでもドライバーになれます。

また、以前からハンディーがある人たちと一緒に働くという事を実践しているWCOがあります。多摩市では障がいのある方と一緒に働くことを目的に、全く同じ時給で働くことをコンセプトにしています。千葉市では不登校や引きこもりの若者の親が、子どもの働く場を作っています。また、横浜市でも社会的に不利な方たちの就労支援が行われています。

最後に、被災された大船渡市の写真や講習会の様子、各地域にあるWCOを写真で紹介と説明がありました。

『仲間と始める地域協働ビジネス』

おおさわ やすこ
講師：大澤 靖子

企画：NPO・ACT 府中たすけあいワーカーズ ぽ♥ぼ



【講師プロフィール】

1983年に生活クラブ生協の提案「WCOで新しい働き方を考える・創る」により地域にWCOで起業する

1984年(企)WCO「昼の会・惣」10人で設立(仕出し弁当・各種料理)

1999年(企)WCO「キッズルームていんかあべる」6人で設立(子育て支援)

2003年WCO「ザ・事務局ワーカーズ」6人で設立(事務局作業全般)

2010年(一般社団)WCO「ぷろぼの工房」8人で設立(企画・編集・居場づくり)

2009年～ACT理事

(WCO：ワーカーズ・コレクティブ)

今日は「仲間と始める地域協働ビジネス」ワーカーズ・コレクティブの働き方をお話します。

まず、3日前の朝日新聞に載っていた、同志社大学の学院教授、岡野八代さんの原稿を読ませて頂きます。

「子育てや家事、介護など、女性たちが家族の中で担ってきた仕事の意義を尊重し、表面的な自立の陰に隠れてきた受け身で、依存的で、それゆえ政治の場から排除されてきた弱い主体を再評価するのが、私の目指すフェミニズムの政治学です」これは30年前の設立時から現在まで「ワーカーズ・コレクティブは女性が主体です」という根本の考え方に重なります。

地域で社会的に生かされないスキル、パワー、経験を仲間と仕事にしてきました。働き方は、今から45年前に生活クラブ生協から提案されました。当時の社会状況は、女性は家の中で子育てをしていなければならない、親の介護をしていなければならないという価値観の時代でした。

ワーカーズ・コレクティブの働き方の価値は雇用関係のない働き方。一人ひとりが出資し、自己決定し、責任をもって働きます。メンバー全員が経営者であり、労働者です。神奈川県で第1号が1983年に設立され、東京が1984年のスタートでした。新しい働き方の仲間を集め起業の呼びかけをしましたが、なかなか理解されませんでした。

現在東京では88団体が活動しています。大きな特徴は、まちに必要な機能を事業化すること。自分の地域をいろいろ見回し「こういうことがあったら」「こういう事業があったらいいね」「これなら私もできるわ」を掘り起こし「地域にあったらいいな」の仕組みをつく

り、暮らしやすい街づくりを目指すための事業として起こすことを目的にしています。

また、違いを認め合って共に働く。性別、年齢、ライフスタイル、障がいのあるなしなどの違いを理解し合って働きます。

ワーカーズ・コレクティブという働き方が選択肢として選ばれる社会構造になればいいなと思っています。これから皆さまも「私だったら何ができる」ということを考えてみましょう。

事例紹介

① 企業組合ワーカーズ・コレクティブ「椀もあ」

代表 谷村 直子

「椀もあ」は府中市美好町で弁当・仕出しの小売販売業を営むワーカーズです。設立は1995年で50歳代を中心に30～60歳代のメンバー(出資者)は13名、OBを含むアルバイトは10名です。

主な仕事は府中市内の事業所・官庁・病院・店舗・学校・個人宅への日替わり弁当の配達と2003年度よりスタートした府中市社会福祉協議会からの委託事業である市内高齢者宅への夕食配食サービス業です。

22年前、生活クラブ生協の支部委員として活動中、市販弁当の内容に食の安全に対する疑問を感じ「本当に安心して食べられる弁当屋が欲しい！ならば我々で作ろう！」の声に賛同した子育て真最中世代の主婦14名が資本と労働力を持ち寄る新しい働き方を選択し誕生しました。スタート当初は主婦感覚が抜けない私たちでしたが、ローテーションの基本形作り、他ワーカー

ーズへの研修、運営会議を通じて意見交換をするうちに経営者としての自覚が高まりました。その後1999年には企業組合となり法人格を取得しました。

更に2014年4月からは地域の高齢者の皆さんに安心して自宅で住み続け、一食でも確実に栄養を摂って欲しいという願いから委託事業に加えて腕もあ独自の夕食配食サービスを始めました。メンバーの高齢化という悩みを抱えていますが、他ワーカーズとの連携交流を大切にして、目標の一つであるデイサービスの食事提供に向けて、新しい仲間に参加してもらえよう、柔軟な体制を整える努力をして行きたいと思っています。

② NPO・ACT 府中たすけあいワーカーズぽ♥ぼ

代表 上條 さと子

生活クラブの班では、人と人の助け合いは当たり前でした。それを地域の中の人たちにも広めようということが、アビリティクラブたすけあい「ACT」の原点です。20年前は、子育て・介護が個人的な問題でした。この問題を仕事として地域で担っていこうと話し合い、府中では1996年、「ぽぼ」が発足しました。

ACT会員同士の助け合いは、自立援助サービス(ACT独自事業)として子どもから高齢者までが対象の訪問サービスです。一人ひとり担当コーディネーターが、サービスの提供内容を確認しながら進めます。

事務所に来て頂く多世代交流事業(ぽぼの木)を去年から始めました。公的なサービスは、世代ごとに区切られていますが、地域にはいろいろな世代が住んでいます。核家族化が進む中で、多世代の思いを束ねていくという新しい形の、地域に必要なコミュニティ事業です。この事業が始まって2年ですが、次にコミュニティカフェを展開していこうと、準備を始めています。

メンバー数は53人で、18年間に150人が関わってきましたが、ワーカーズという働き方は社会の選択肢にはなっていません。お金が必要な時期、訪問ケアのワーカーズでそれを担おうと思ったら大変です。ぽぼでは、70歳を雇用関係では定年と考えていますが、正会員をやめる必要はありません。70代になっても雇用されない形のメンバーで、ぽぼの木の活動をします。

地域で暮らし続け、誰かの役に立ち、自分らしく生きる。主人公であり続けることができるのは、ワーカーズの働き方ではないかと思い、次の事業を展望して

います。事業として継続することが、地域の問題を解決していく大きなポイントだと思います。今後、ワーカーズが社会の選択肢である事を示したいと思っています。



③ 一般社団法人ワーカーズ・コレクティブ ぷろぼの工房

宮崎 みゆき

ぷろぼの工房の「プロボノ」とは、ラテン語で「公共善のために」を意味します。2010年11月に12人(東京ワーカーズの理事や代表を経験してきた人、現に他のワーカーズで働いている人)で設立しました。20年以上自分たちがやってきた経験を生かして、社会貢献的なことを新たな形にしたい、ワーカーズ運動に対して協力したいという思いで立ち上げました。

昨年6月、一般社団法人の法人格を取得し、これまで以上にしっかりと事業に取り組み、法人化を生かして、より社会貢献度の高い仕事を目指すことになりました。現在、出資しているメンバーは15人です。事業は、企画・調査・コンサルティング・デザイン・編集・布製品作成など、大変多岐に渡っています。これらの仕事は、メンバーのスキルを生かし、依頼があったらチームを組んでします。

企画の中に、定期的に行なっている事業で「ぷろぼのサロン・いっちゃん家」があります。西府町に事務所として借りている一軒家を利用して、毎週月曜日に親子ひろば、毎月第1金曜日に絵手紙教室、第3金曜日にお茶っこクラブを開いています。二間続きの広さを生かした居場所づくり事業は、地域に“あったらいいな”の考えで実現しました。私は今、ぷろぼの工房で、人と出会い、人とつながり、視野も広がり、いきいき働いていると実感しています。それは、本日のテーマにもあるように「小さな起業で楽しく生きる」を実践しているからです。

『ライフスタイルにジェンダー視点を』

うしとら かおり

講師： 良 香織

企画：新日本婦人の会府中支部



【講師プロフィール】

宇都宮大学教育学部准教授

主な研究テーマは学校教育とジェンダー/セクシュアリティ。

性について学ぶことは人権である。子どもたちが自らの性をどのように考えていくか、また、他者との関係性をどのように築いていくかというテーマは、ライフスタイルを考えていく上で非常に重要である。

主な著作『ハタチまでに知っておきたい性のこと』（大月書店, 2014）など。

ジェンダーの切り口から考える

今回のテーマである「ジェンダー」は、「社会的文化的につくられた性」と説明されることが多いと思います。「ジェンダー」が「男女共同参画」とか「男女平等」とどのような関係にあるのでしょうか。まず押さえておきたいことは、**人権についてジェンダーという切り口から考えたい**ということと、この問題は理論として理解するのではなく、自分の生活や価値観、考え方に結びつけて考えないと、何の意味もないという類いの概念だということです。自らのバイアスに気づいてどうすればよいかを考え、動くということが必要となります。時には無自覚にジェンダーバイアスを再生産していることもあるわけで、自らの加害者性にも自覚的になるということがスタートラインだと思います。例えば、皆さんも、身近な人にそろそろ結婚しないのとか、恋人いないのとか、子どもはまだ？みたいなことを善意で言ったりしていませんか。それが相手をどういう気持ちにさせるかとか、そういうところまで想像するということなのです。

日本の家族は多様化している

多様性というのは、いうまでもなく一人ひとりが尊重されるということです。しかし私たちの社会にはこういう生き方をした方がよいというような考え方はいろんな場面にあります。そうした「ライフステージにおける主流秩序」があり、「どちらが正しくて、それを選ばなかったり、選ばなかったら、ワンランク下のところに置く」という序列性みたいなものが生まれがちです。

私たちは、生まれてから死ぬまでのことを「ライフステージ」といいます。出産、子育て、介護、死などです。そこには色々な種類と選択肢があるけれども、こういうライフイベントを選択すれば一人前だよとか、これが常識だよという考え方があります。この主流秩序が、日本は特に強い社会であると言えます。

最近、家族という枠がすごく強調されつつあります。そのときの家族というのは両親がいて、男女の法律上の

手続をして、子どもがいて、ときにはおじいちゃんおばあちゃんがいてというような家族のかたちがいいものだという情報が、色々ところで強調されるようになってきています。しかし家族の形は実質的に多様化してきています。例えば単独世帯は3割を超えていますし、法律婚をして、子どもがいない世帯は大体3分の1です。社会一般でいわれている家族の形、法律上の手続をして子どもがいてという家族は、**3分の1**を切っています。

このように実質的にも多様化しているにも関わらず、昔ながらの家族の助け合いというのが強調されています。特に震災時や震災後にはこれが強調されました。日本社会は、色々な問題が起きたときに、家族でいろいろな解決をするような方向に持っていく傾向があります。社会システムや福祉システムをつくり直したりするのは大変だからというのもあります。小さな福祉、福祉の隠し財産と言われているくらいです。本来、社会システムをつくらなければならない様々なものごとを家族単位で担わせて、主にケア的な役割、例えば育児や介護、家事活動などは女性が担ってきたという歴史があります。それは非常時、震災ですとか、戦争中などに顕著に見られる傾向だと思います。

今回の憲法の改憲草案でもそれは顕著です。まずこれまでは「個人」という表記だったのが「人」に変えています。「個人」の「個」が消えたのです。「人」というのは、個人個人というよりは、グルーピングされた1つ、ひとまとまりの人、集団としての人に強調されつつあるという事です。また家族の役割が強調されるようになりましたし、多様な生き方の人たちの人権が守られないような動き、うねりというものが、確かなものとして起きているという現状があります。

「男女共同参画」とジェンダー

「ジェンダー」とは、一般的な理解は、社会的・文化的に作られた性差、性別を意味するということに使われています。ジェンダーに関する偏見をジェンダーバイア

スとも言います。ジェンダーの概念というのは実はもう少し広いものであって、2つのことを提起したと言えるでしょう。1つは性差別の問題は男女両方の問題であることを改めて再認識させるように働きかけた事です。もちろん女性の人権獲得の活動は非常に重要でしたし、今もそれが実現されているとは言い難い現状があります。ただ女性が何か闘って社会進出するだけでは女性が男性並みになるだけですよね。男性も「男らしさ」によって様々な生きづらさを抱えています。**女性と男性の両方の生きづらさを支えている社会の仕組みを変えなければ、根本的な問題は何も解決されない**ということをジェンダーの概念は課題提起したのです。もう1つ、提起した重要なことは性は多様だということです。女性、男性とひとくくりにはできません。さらに男女の2項だけではない、揺らぎを含めた多様性を提起したのです。

性の多様性

皆さん、周りの人を見てみて下さい。色々な方がいますね。みんなきっとその人の人権を守りたいな、その人も生きやすい社会だといいなと思うかもしれないけれども、何か大変そうです。大変なものを抱えて、自分も多分そうだと思うのです。だから違いというのを前提につながり合いながら、よりお互いが心地よい社会をつくるというのは結構至難の業なのです。その時に最低限の自由権、社会権というような人権のベースになるような権利は、やはり保障すべきだというのがあると思うのです。その中でどうつながれるか。現実的にはなかなか難しいわけですが、多様だということがわかれば楽しいというか、自己の解放ともつながります。先ほど、女性も色々、男性も色々、そして男女の2つではないということをお話しました。そのことについて少し具体的にお話したいと思います。今、性を3つの側面で捉えることが多いです。**1つはからだの性**（身体の性）です。もう**1つはこころの性**。「性自認」「ジェンダー・アイデンティティー」と表現することもあります。**3つ目が性的指向**（性指向）です。誰を好きになるか、ならないかということです。これまで男らしさ女らしさの根拠となってきたのがからだの性です。からだは絶対的なもので、社会的文化的な性のあり方を変えていこうというトーンでした。しかし、からだのあり方も実は多様であることがわかってきたのです。遺伝子型や内性器や外性器等々でインターセックスと言われますが、多様であることが明らかになってきました。そして心の性ですが、これは自分の性をどう捉えるかということです。からだの性とこころの性が一致する人もいれば、一致しないこともあります。揺らぐ人や決めない人もいます。性同一性障害という言葉を目にした方は多いのではないのでしょうか。今、性別違和と言

ったりします。これはからだとこころの性が一致しない人全体をトランスジェンダーと言います。その中でもこころの性をからだの性に合わせないととても生きづらいという方をトランスセクシュアルと言い、その疾患名を性同一性障害と言います。この呼び方を嫌う方もいます。3つ目の性的指向における性。誰を好きかです。これはこころの性を軸に考えますが、自分のこころの性と違う性を好きになるのを異性愛、同性に向くのが同性愛、性があまり重要な基準ではないのを両性愛、どこにも向かないというのを無性愛と言います。これは一生の中で揺らぐ人もいますし、便宜上、この定義をしたものの、ひとくくりにはできないものです。

私たちが一般的だと思っている性のあり方とは、多様な中のたった2通りしかなく、むしろマイノリティーなのです。しかし、その2つが当たり前だと思っているような社会がつくられてきたということです。

私たちにできることは何か

1つは「性は人権だ」と言いましたけれども、もう一度自分の性のあり方や生き方を自分自身で選択、決定するという作業が必要だと思います。その上で、**多様なあり方を個性と認め合いながら共生**することを模索することが大切です。実際には様々なバイアスがありますから、お互いが心地よい関係性をつくるために模索すること、自分の葛藤を整理するという作業を含めての模索が大事なのです。

また、常に**自分のジェンダーのバイアスの問い直し**というのが大事になります。多様な存在を排除する社会の仕組みに気づいて目を向け、内面化したバイアスに自覚的になること、できれば変革に向けて行動もしてほしいなと思います。それが社会的な存在ということだと思のです。「知らない」ということは「関係ない」ということではなくて、このような社会の差別構造を無自覚に支えてきたいる加害者でもあった/あるということでもあるのです。これは他の問題でも同じことが言えると思います。

何が幸せかというのはそんな大枠では図れません。一人ひとり違う。しかし家族をもって一人前みたいな考え方は、やはりまだまだ根深いですし、もしかしたら皆さんも身近な人たちに「結婚まだ？」とか「そろそろいい人いないの？」などと言ったりしていませんか。また、もしあなたの妹が「離婚したい」と言ったり、あなたの男のお孫さんがピンクのランドセルをほしいと言ったらどうしますか。どうでしょうか。これらの問題というのは、越えるべき壁はたくさんありますが、大事なことからこそ丁寧に、時間をかけて取り組んでいければいいかなと思います。

『府中の中で仕事を作ろう！』

おおた のぶゆき
講師：太田 殖之
企画：市民活動研究会



【講師プロフィール】

1976年北海道生まれ、府中育ち。広告やWEBサイトなどのデザイナーから、まちづくり関連の仕事に転身。地域活性化プロジェクトやNPOなどの社会的起業家の育成、コミュニティ作りに従事。2014年に石川県七尾市へ移住現在、能登地域の地域再生プロジェクトに携わる。株式会社ぶなの森（地域コーディネーター）、能登定住・交流機構（事務局）、日本ビジネス・インキュベーション協会認定インキュベーションマネージャー。

今回は「仕事を作ろう！」というテーマですが、最近「場づくりするところから始めてみよう」とよく言われています。

そして、場づくりから「地域の仕事を生み出していこう」ということで、他のまちの事例や、私が今、直接取り組んでいることをご紹介します。皆さんと考えていきたいと思います。

私は元々、デザインの仕事をやっていましたが、この10～15年ほど、色々な地域でまちづくりのお手伝いをしてきました。

昨年あたりから、妻の実家がある石川県能登半島の七尾市からお声がけいただいて、東京から地方の手伝いをするのではなく、直接自分が地方に身を置いて何かできないかと、4月に七尾市へ移住しました。

石川県七尾市での取り組み

まず始めたのは、まちのことをみんなで知ろうということで、七尾市の歴史・財政状況・産業・防災の取り組みなど、それぞれ市の担当の方を講師として招いて、七尾義塾という勉強会を開催しました。

参加者は、七尾市の若い市民や市役所の若い職員です。地域の課題を共有しながらの仲間作りで、共通の認識もつので活動を起こしやすい環境になります。

そして、フューチャーセッションを行いました。フューチャーセッションとは未来志向で物事を考えて、今何ができるのかを、行政、市民、事業者などがそれぞれの立場を超えて集り、みんなでアイデアを出しあっていくワークショップです。こういったところから、幾つかやってみようという活動が生まれます。

例えば、集落や漁師の方と一緒に、里山を手入れしていくような活動、「木こり体験」「森の癒し」などのツアー、体験プログラムなどの観光事業、また、間伐した木材を薪にして販売するような仕事も生まれました。

活動を起こす場の事例紹介

富山県氷見市

氷見市ではファシリテーターの仕事をしていた方が市長に。市長が変わるとまちがどう変わるのかということ、今、日本中から注目されているまちです。

2014年5月に旧校舎を活用し新しい市役所を作りました。ワークショップをやるための仕掛けが施された庁舎で、職員が皆ファシリテーター。重要な会議でもガラス張りの部屋で行われ、市民に公開されています。意見も自由に言える空間になっています。

埼玉県鶴ヶ島市 市民活動推進センター

民間のまちづくり会社に運営を委託し、市民活動を支援する拠点です。まちの課題解決につながる事業づくりのアドバイスをしたり、勉強会や講座を実施。もち込まれるまちの課題を解決するために、市民活動団体や町会の方々と一緒になってプロジェクトを作っています。活動の中から社会的な事業を起業する方には、市役所のスペースを開放してオフィスにできるような場所も用意されています。

埼玉県鶴ヶ島市の取組



また、施設だけではなく、ITを利用した地域SNSやICカードを使った寄付システムなど、若者や学生などが、時間の制限なくまちづくりに興味をもち、参加しやすい環境の整備も行われています。

他にも、新しい働き方の創出を目的としたものとして神奈川県横浜市の「関内フューチャーセンター」があります。

また、市役所や市民活動センターの他に図書館を活用している埼玉県川口市の「メディアセブン」や、元々図書館だった施設を図書館としての機能に加えて、色々な知識を得られる施設にした山梨県山中湖村の「山中湖情報創造館」、他には宮城県仙台市の「せんだいメディアテーク」などがあります。

府中市や多摩地域で活動を生み出す場は

府中市は先月「市民協働都市宣言」を出しました。これは、府中市が行政だけではなく「市民と市が一体となって協力しながらまちをつくっていきます」ということを、宣言として世界に打ち出したものです。皆さんが色々なアイデアを出したり、問題を話し合えば、一緒になってそれを実現できるように市もサポートする環境が、これから整うということです。

府中 NPO・ボランティア活動センター

府中駅前のグリーンプラザ1階にあります。市民・地域の方が活動するのを支援するセンターです。コミュニティビジネスのセミナーを開催したり、相談会を実施したりしています。

また、市民協働推進シンポジウムを運営しています。来年1月24日に第3回目を開催するのですが、今回は、府中市が取り組んでいることに関して、参加者が色々なアイデアを出し合う、ワークショップ形式にするということで、準備を進めています。

センターには、地域で活動している登録団体が120くらいあり、その団体のPRの場として、グリーンプラザで年1回、NPOまつりが開催されています。地域でこんな活動があるのだなと、知っていただく場になると思います。また、ホームページも是非ご覧になってみてはいかがでしょうか。

多摩CBネットワーク

東京多摩地域を対象にしたネットワークです。府中だけでなく多摩一体で課題解決したいと、活動している人たちが集って勉強会をしたり、アイデアを出し合ったり、支えあって取り組もうとしています。

東京にしがわ大学

まず仲間づくりということであれば、こちらがお勧めです。23区ではない自然が豊かな多摩地域を舞台に、学

びでつながるコミュニティです。地域で何かやりたい、頑張りたいという人たちの学びあいの場所です。こういうところで仲間を見つけてみるのもいいと思います。



参加者の考える地域の課題や活動

参加された方々とのディスカッションの中から、様々な意見が出ました。

- ☆地域で訪問看護という医療を届ける仕事をしている。地域の中で人がつながるコミュニティビジネスが必要だと考える。
- ☆福祉の仕事をしている。地域でつながりを作っていくにはどうすれば良いのか？
- ☆府中市に住んでいるが、都心で仕事をしており、ほとんど寝に帰るだけの生活。地元のことをあまり理解していない。
- ☆子育て中の主婦です。府中市は施設も充実しているが、主婦目線でこんなものがあつたらいいと提案したり、声をあげたい。
- ☆府中の良さを見つけて、そこをみんなで盛り上げたり、外に向かって発信したりするような活動してみたい。
- ☆何かをする時、得手不得手があつたり、年齢が高くなるとできない事もある。皆さんといろいろかかわりながら、自分にできる仕事がしたい。
- ☆定年でフリーになった。年金だけでは足りない。仲間と気持ちよく働きたい・稼ぎたい！
- ☆3人の子どもの母。興味があるのは生涯学習や家庭教育。ママたちの能力を活かすような起業を応援したい。

講師太田さんからのまとめ

まずは、府中のまちを知るところから、どこか場所を借りて勉強会をしたり、未来志向でものを考えることを試しにやってみたり、こういうことから活動は生まれてきます。

今、何か解決したい課題があつたり、活動を起こしたいと考えているなら、皆さんと共有するところから始めてみてはいかがでしょうか？きっと仲間やアイデアが集ってくると思います。

『産む、産まない、生まれる命を考える』

やなぎはら よしえ

講師：柳原 良江

企画：府中ネット



【講師プロフィール】

東京電機大学理工学部教員

「代理出産を問い直す会」代表。

専門は生命倫理学、社会学、ジェンダー論。

『テクノロジーとヘルスケア—女性身体へのポリティクス—』共著。
ドキュメンタリー映画『卵子提供—美談の裏側』総合監修・翻訳

「卵子の提供—美談の裏側」の上映後、映画の解説も含め、理工系大学で科学社会学、科学技術史等を教えている柳原良江さんにお話を伺った。

代理出産を問い直す会

2007年から2008年にかけて、向井亜紀さんの代理出産に関する最高裁判決などを受け、国内で代理出産に関して大きな報道、議論があった。しかし専門の学会では、法律や医学の視点が重視され、人文系の視点、すなわち、他者の身体利用という、極めて哲学的、道徳的、倫理的な問題はほとんど顧みられなかった。当時の生命倫理学者は代理出産に否定的だったが、メディアに醸成された圧倒的な世論の前で、批判もせずただ沈黙していた。人の生命とか身体に問題を与えるような行為が、その場の雰囲気にもまれて崩壊的に許容されてしまう現状に対して、人文系の立場からきちんと異議を唱えていこうということをこの会のスタンスとしている。

卵子提供でも一番弱い立場の女性があたかも存在しないかのように語られていることに非常に強い危機感を抱き、何が問題か知ってもらうためにドキュメンタリー映画「卵子の提供—美談の裏側」日本語版を制作した。

日本の卵子提供の実態

1993年に卵子提供による日本人の妊娠例、1998年に国内での姉妹間での卵子提供による妊娠が公表された。卵子提供は行ってはならないという日本産婦人科学会の戒告は法律ではないので、医師の間では少しずつ行われている。

渡航生殖では日本人による卵子提供（採卵）は、海

外にいる日本人の留学生や若い女性の場合と、日本にいる日本人女性に海外への旅費を支給する場合があります、報酬はともに50万～60万円程度とされている。

卵子提供の報酬は学歴や人種により変動する。卵子提供者は、IQとか見た目という条件だけでなく、性格も重視され、あまり批判的なことを言わないような人が雇われる。依頼者の経済状況に合わせて請求額を変動させるなど、実際には卵子提供が強い市場原理のもとで動いていると言える。

卵子提供の契約では食事や嗜好品、性行為が制限され、薬や注射も医師の管理下で使用される。提供者は身体が管理され、これらを自分の判断では中断できない。卵子提供により重い副作用や病気を発症する場合もある。

日本の一般的な不妊治療は、身体に負担がかからないように時間をかけて丁寧に実施され、だからこそ副作用が最低限に抑えられている。それでも当事者たちはさまざまな副作用を受ける。ただ、不妊治療では子どもを欲しいから我慢しているし、実際に子どもができたらあえてそれを問題にしなくなる。

卵子提供をする場合は短期間に大量の卵子が必要になるので、一般的な不妊治療のように時間をかけてゆっくりやるわけにはいかない。もし長時間かけた場合は提供者の身体や生活を長期間管理することになる。

生まれてくる子どものリスク

子どもが負うリスクの問題も重要だ。全く遺伝的なつながりのない女性のおなかにいる子どもには免疫上の問題が出てくる可能性があると言われている。閉経後の高齢の女性の妊娠により子どもが健康リスクを持つ可能性がある。卵子提供者が匿名の場合、自分の

遺伝的な親がわからず、本人が自分の生の中に困難を抱えてしまう。常に自分の家族や家庭の中で緊張がある。代理出産の子どもは、自分が売られたまたは買われたという感覚を持っていると本人たちは言う。子どもたちは、自分が偶然ではなく誰かの目的のもとに生まれたという感覚を持つから、自分は自分である、ただ唯一の存在であるといった本来のアイデンティティの感覚を剥奪されてしまう。

性と生殖の自己決定権

卵子提供は自己決定と言えるのだろうか。自己決定権とは、自己の私的な事柄について自由に決定する権利を指す。

自由とは、ジョン・スチュアート・ミルによると、我々が他人の幸福を奪い取ろうとせず、また幸福を得ようとする他人の努力を阻害しようとしないう限り、自分自身の幸福を自分自身の仕方でも追求することを意味する。その後、自由は消極的自由と積極的自由に区別されるようになった。消極的自由は、何かから受けている抑圧から解放される自由。積極的自由は、抑圧の有無とは別に、自分で自分のしたいことをする自由。女性の性と生殖の権利は、もともとは社会から課せられたジェンダー規範に対する抑圧からの自由という消極的自由として発達してきた。近年になると、さらに自分のやりたいことを自由にできるようにといった意味での積極的自由へと展開してきている。

生殖技術で用いられる自己決定権

では、第三者のかかわる生殖技術で用いられている自己決定権とは何か。卵子提供や代理出産では他人の身体を利用する自由が求められているが、この自由は先ほどの性と生殖の権利を求めることとは違う。

提供する側の立場に立てば、自分の身体を第三者に譲る、または売る自由はどうか。臓器移植は似たような構造をもっている。臓器移植はあくまでも、形式上は既に亡くなって物体と化した方の身体を利用するという名目がある。生体肝移植の場合でも最後のぎりぎりのよりどころとして、それをしなければ亡くなる人がいる。誰かの命をはかりにかけたときに、例外的に許容されるという形で成り立っている。誰かの命が関係していない状況で、自分の体を第三者に譲っていいとか売っていいとか、そういう自由を我々の社会は許容していない。提供側が強く希望したときに、まず自

己決定権行使の前提は、本人がそれを理解して判断するインフォームドコンセントが必要になるが、医学的・社会的リスクが全くわからない中で自己決定権を持ち出すことはできないと考える。

仮に、本人が後遺症や死の覚悟も十分にしている、家族が崩壊しても構わないという場合だったら提供側の自己決定は可能なのか。日本の親族間で行われた代理出産では、実際に家族が崩壊したような事例もある。そのために、その後姉妹間での代理出産を行わないとか、それから健康上の問題が出たということも言われている。しかし、本人がそれを納得するならばいいのか。もう一度、この命題を別の視点で考えたい。本人が覚悟して、構わないという選択をする。これを男性が行ったら社会はそれを放置するだろうか。それでもいいと言うだろうか。実際にしていない。臓器移植の例を見ていればわかる。臓器売買が日本でも行われたとき、そこで社会は大騒ぎした。つまり、この問題は女性が行っているから、社会の中で大した問題と思われていないといえる。

卵子提供、代理出産の中にある性差別

卵子提供や代理出産の中には性差別がある。経済的な強者がこれを利用して、あたかも問題がないようにレトリックをつくる。依頼者や医療者、あっせん業者は「代理母は聖母である」「天使である」「代理母になるのは本人の幸せである」などと言う。依頼するのもあっせん業者の多くも女性であるため、差別構造が見えづらい。

女性差別を行うのは男性だけではない。女性みずからが自分の持つ差別行動をきちんと認識して、これらの問題についても一度考えて頂きたい。



会場からは、若い女性たちがリスクを知らずに卵子提供をしてしまうことに危機感をもつ等の声が寄せられた。

理系女性のワークライフバランス ～東京農工大学の女性研究者の活躍～

東京農工大学女性未来育成機構

講師：^{おおつなおこ}大津直子（東京農工大学農学部生物生産学科 講師）
平成21年 東京農工大学女性未来育成機構助教、
平成24年より農学部生物生産学科講師。専門は植物栄養学。

講師：^{ふじたきょうこ}藤田恭子（東京農工大学工学部生命工学科 講師）
平成25年より東京農工大学女性未来育成機構講師兼務、
工学部生命工学科講師。専門は生物物理化学。



司会：^{ほしのあきか}星野明香（東京農工大学女性未来育成機構コーディネーター）

星野：東京農工大学では、女性研究者支援のための組織“女性未来育成機構”を立ち上げ、出産・育児・介護中の女性研究者のサポートや、女子学生のキャリアパス支援など、女性研究者の研究活動を支援する取組みを進めています。本日は東京農工大学で活躍する女性研究者が、理系女性のワークライフバランスについてお話しします。

大津直子先生の講演

私は現在2人の子どもがおり、東京農工大学農学部で講師をしています。

・現在のキャリアに至るまで (研究者になった経緯)

自然いっぱいの田舎で育ち、小学校時代から理科に興味をもち始めました。仕事と家庭を両立しようと思うようになった最初のロールモデルは母親でした。大学時代に植物生理学に興味をもち、農学部の植物栄養学の研究室に進みました。学生時代から現在まで取り組んでいる研究内容は、植物の生育に必須な硫黄が吸収、代謝される仕組みを遺伝子レベルで調べ、将来育種に利用することです。学生時代、研究者になる事に迷いながらも研究の楽しさに惹かれて大学院の博士課程へ進みました。博士号取得後、夫の留学先のアメリカでポスドクを経験しました。そこで日本と米国の働き方（研究生活）の違いを目の当たりにし、長時間勤務をしない、家族との時間を大切にするという働き方に影響を受けました。

・大学教員と子育てをどうやって両立させているのか

子育てと仕事を両立させている女性研究者にほぼ共通していることは、仕事量に応じて、夫婦で家事を分担していることです。またロールモデルの女性研究者が、焦らずに少しずつ続けていけば、再び研究のフロントに戻ることができることを教えてくれました。大学教員は、研究のみしていたポスドク時代と比べて、業務が幅広く忙しいです。時間を徹底的に有効に利用する、家族のサポートを受けるなどして両立しています。

・家族と仕事両方を大切にできる社会になるには日本においては、長時間労働が大きな問題の一つだと思います。労働の効率を上げ、短時間労働

を可能にする制度を整えることや、育児をしやすい労働環境を整える事が大切だと思います。男性も女性も、仕事と家族を両方大切にできるようにすることが、本当に幸せな、豊かな社会になる鍵ではないかと思います。

藤田恭子先生の講演

私は大学院卒業後、オーストラリアでのポスドク研究員などを経て、現在東京農工大学女性未来育成機構と工学部生命工学科の講師を兼務しています。研究分野は生物物理化学で、イオン液体という液体に、様々なタンパク質を溶かすことによっておこる、それらの性質の変化や、逆に性質の保持といったものを研究しています。イオン液体を用いて、タンパク質の溶媒としての利用や、生物燃料電池、医薬、医療品への応用といった活用が考えられています。

私は現在3人の子どもの育児と研究の両立を行っています。このような両立には上司や周りの理解が本当に大切であると日々痛感しています。研究室のボスである男性教授が大変理解のある方であるため、子どもの急な病気などがあっても自分の判断と調整で研究を進めることができます。柔軟な対応ができる環境が長期にわたる育児と研究の両立を可能にすると思います。また、政府・大学・学会などからのサポートする制度にも随分助けられています。特別研究員としての採用、また現在所属している女性未来育成機構からの支援、学会期間中の託児室のサポートなどがあります。またファミリーサポートセンター、ご近所さん、ママ友といった、地域や友人にも助けられてきました。そしてもちろん両親や兄弟、夫などの家族からの多大なサポートなしでは、仕事と家庭の両立は成り立ちません。留学していた時のボスは女性教授で、仕事も家庭生活も楽しむ方でした。また学術振興会の特別研究員をやっていた時には研究と家庭生活の両立を頑張る多くの仲間に出会うことができ、これらの出会いが今の自分の励みになっています。自分もそういったロールモデルとして、少しでも女子学生などの見本になればよいと考えています。

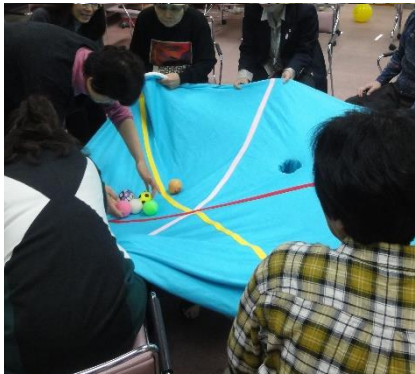
登録団体・市民団体によるワークショップ

物忘れ予防脳活性化ゲームで 笑いましょう！

認知症予防ネット東京府中

スリーA（増田方式）は優しさのシャワーを浴びながら、自然と大笑いするようなゲームを20通り、指先から全身を使って行い、脳機能を活性化します。相手の心を大事にして、良い状態にもっていく、穏やかな生活をしてもらいたいと願い、その心を満たしていきます。

当日は、体験されるのが初めての方ばかりでしたが、ゲームをしている間に、いつの間にかコミュニケーションが出来、笑顔から、満面の笑み、そして大笑いへと変わってきました。



無邪気な笑顔、子どものように、シーツ玉入れというゲームをしています

ハンドメイドマルシェ in Fuchu。

ものづくりの輪プロジェクト

市内在住、20～60代、ハンドメイドを通してこれから仕事を始めたい方、海外や都内でも活躍中のプロの方、介護や子育てしながら等、いろいろな立場の女性が参加し作品の展示販売をしました。

会場にいらっしゃった方は、他県や近隣都市からの若い世代が多く、男女共同参画の意味やスクエア21府中市女性センターを知らないとの声があり、知ってもらう活動の重要性を感じました。



ありがとうございました。

たくさんの方に来ていただきました♪

皮革刺繍のカードケース作り

スミワークス

小さな丸を抜くポンチを皮革に垂直に立てて、小槌でたたきます。針仕事の前に大工仕事のような工程を皆さん楽しんでくださいました。穴をあけたら刺繍糸でバックステッチします。穴さえあけてしまえば、誰でも失敗なくきれいに刺繍ができます。プレゼントとして作られた方もいました。図案も糸の色も選べたので、選ぶ楽しみもあったと思います。



皮革に穴をあけて刺繍をし、カードケースに仕立てます

ターバン風ヘアバンド作り

洋裁クラブ・ソーイングクラブ

「スヌード」づくり講習会を開催。なごやかで有意義な時間を、作る人と教える人が共有できました。「スヌード」は流行っていて、マフラーやターバン風帽子、既成帽子の飾りにと早変わりできる便利グッズ。それを知って参加した方々はとても喜んで、2枚作る方も続出。本当にやってよかった、充実した時間でした。感謝！



丁寧な指導で作ってます♪

バラのはさみケース作り

古布あそび

今回はバラの形のつまみ細工を上に乗せた小ばさみ入れを作りました。

参加者は19名と予想以上でした。

講師として私たち9名も何とか対応できました。

参加者は、布選びから作品ができるまで、それぞれ思いを込めて一生懸命作られていたようです。帰りには「楽しかったです」と声をかけてくださいました。来年もまたこのような手仕事遊びができるように頑張りたいです。



布選びから真剣です

ふわふわの羊毛で

可愛い手まりを作ろう！

チヨールウール

ニードルフェルトの講座。最近ではテレビ番組でも取り上げられており、夢中になっている芸能人もいるほど話題のハンドメイドフェルトです。

今回は、クリスマスに飾るにもよい、そして干支でもある羊をかたどった手まりを作りました。初めて体験する参加者も無心に製作し、はじめはぎこちなかった針さばき(!?)が最後にはコツをつかみ、だんだんと出来上がっていく手まりに歓声を上げていました。本当に可愛く仕上がりました！



ふわふわの羊毛を専用の針でチクチクと刺して固めていきます

赤ちゃんの初めてのお教室

ベビーマッサージサロン tete

3か月から6か月の赤ちゃんを対象に、気軽にできるマッサージを選んでみました。また、これからの季節はお肌の乾燥によるトラブルも増えてくるので、保湿の重要性、保湿剤の選び方などもお話ししました。

日ごろ赤ちゃんと2人きりになりがちなママも、外で同じ月齢の赤ちゃんをもつママとおしゃべりすることで、気分転換になると思います。育児の悩みや、情報交換ができる場があれば、もっと育児が楽しくなるのではないのでしょうか。



ママがお家で気軽にできます♪

ハワイアンなパスモケース作り

ラウレア手芸部

フラダンスサークルの仲間たちが集まって、皮革刺繍のパスモケースのワークショップをしました。

呼び込み担当がいたため、たくさんの人に参加いただきました。小槌で皮革に穴あけをする作業のときに、机の足の真上でない場合には机が沈んでしまいました。図案はハワイアンの他にも用意してあったのですが、イニシャルやロゴを入れたり、自分なりのアレンジをする人も多かったです。皆さん楽しんで参加されていましたが、時間がなく持ち帰った方もいました。



自分なりのアレンジで

中国語で伝えあおう！

日中交流講習会

当日のプログラムは、笑い話、なぞなぞ、漢詩の朗読、勉強中の教科書から本文の寸劇、浦島太郎の童話など実際の場面を想定し、新しい試みのパソコン・プロジェクターを使ったり、小道具・OHPを使つてのパフォーマンスで会場が盛り上がりました。

最後は、定番、全員での中国語合唱の後、先生の講評と主催者挨拶で締めくくり、心配されたハプニングも、代役や発表の順序を入れ替えるなどして、皆様のご協力が無事全ての発表が出来ました。謝謝！



直前に病人が出たり、当日の風邪であわやドタキャンかと思わせ
るハプニングが発生したり、思い出に残る1日となりました

男性料理講座

苹果の会

今回は、“お店で食べられない中華料理”というテーマで開催しました。

当日は、若い方から年配のお父さんまで幅広い年齢層の男性に参加していただきました。

1品目の中華版おやきは、ニラとセロリを使ってチャレンジしました。おやきの皮も手作りしました。粉を練って塊にし、さらに、ちぎって皮にしていづく作業が面白いと好評でした。また2品目の中華風おかゆスープは、鶏肉、銀杏、ニンジンなどを入れてとろみをつけたもので、とても体が温まるものでした。

お土産もでき、参加された方々からは「家に帰ってから家族に食べさせて、また今日の料理を再現してみたい」など、嬉しい感想も頂きました。



作るだけじゃだめ～後片付けも♪

伝える気持ちラッピング

渋

ほぼフォーラムの恒例となっています、ラッピングワークショップです。

今年、参加人数は少なかったものの、ラッピングの基礎の包み、ひと手間かけたアイデアと、いつもより盛りだくさんの内容でした。暮らしの中で、癒し効果のあるギフトとして活用していただけたらと思っております。プレゼントにくっつけたサブプレゼント、お楽しみ要素も満載！楽しんで頂きました。



一つひとつのラッピングが3つ合わさると、何とクリスマスツリ

絵本・おはなしの楽しさは無限大!!

おはなし夢くらぶ

【1部】秋のお話会 ～絵本から語ってみよう～

- ・手遊び
- ・おはなし「三枚のお札」「人参 大根 ごぼう」
- ・絵本読み語り「おしくらまんじゅう」「大きくなるってことは」
- ・ペープサート「そっくり」
- ・ことりのかくれんぼ

※参加の子ども年齢に合わせるよう絵本をいくつか用意した。最後の小鳥がかくれんぼする様子に大喜びだった。

【2部】心にのこる絵本～共感する楽しさを味わってみよう～

- ・「読み聞かせ」と「読み語り」について
- ・絵本の選び方について
- ・絵本を読む前のストレッチ
- ・参加者と「楽しく読みましょう」

※講師(須山)の講義と、参加者に好きな絵本を読んでもらう。人前で初めて読む経験をしたと喜んでくれた。



おはなしの世界にママも引き込まれて

アロマクラフト作り

親子ワーク

子どもから大人まで、アロマの香りともものづくりを同時に楽しんでいただけるワークショップを開催しました。作り方は簡単！保冷剤に色をつけ、クリスマスの飾りつけをし、精油を混ぜればエコな芳香&消臭剤が完成。

3歳の子どもから70代の方まで、幅広い年齢層の方々が一緒に楽しめる場となりました。

お一人おひとりが、それぞれ個性の光る素敵な作品を完成させることができました。



アロマの香りに包まれて

お茶席

つくしの会

開始早々、小学生の男子がたくさん来て、お抹茶とお菓子を楽しんでくれました。さらに、体験にも参加し、それをつくしの会で学んできた女子が教えるという、ほほえましい光景を見ることができ、周りの大人たちも癒されました。大勢の方々に楽しんでいただき、つくしの会のメンバーも励みになりました。このように、お茶の文化が男女関係なく、いろんな世代に気軽に伝わっていくと嬉しいです。



ロビーにて小学生中心に、盆手前にてお抹茶をふるまいました

パパと一緒にリトミック

ポップの会

音楽の力は偉大で、沈んだ心を明るくしたり、痛みを和らげたり、勝手に体が動き出したり、記憶を呼び覚ましたりします。その音楽の力を使った教育法がリトミックです。

子育てに疲れたママに、子どもの笑顔と、ご自身が幸せに浸れる時間を与えたい。折に触れ、パパにも、子どもと一緒に感じる心を全開にした時間を提供したい。そんな思いで、この企画を続けています。

ご縁に感謝いたします。



保育室がしあわせオーラのパワースポットになりました

自分で作ろう♪お弁当・チャ・チャ・チャ♪

ウィメンズアクション府中

料理初心者の中学生男子や女子大生、お弁当づくり現役の主婦たち…さまざまな年代の12名の参加者が集まりました。献立は、簡単ピクルス・ハンバーグ・ほうれん草炒め・チューリップウィンナー・じゃこ入り卵焼き・茹でブロッコリーです。ハンバーグの材料はビニール袋に入れてこね、ピクルス以外は全て1つのフライパンで作りました。参加者からは「自分で作れるものが増えて嬉しい」「自作もアリかな？とりあえず練習はしておくべきだ」等、嬉しい感想を頂きました。



持参したマイお弁当箱に自分で詰めて完成！

パソコンで伝えあおうよ！

パソコン連絡会

今年度は市制施行60周年、女性センター設立20周年と重なり、賑やかだったように思えます。今年も体験コーナーでは年賀状・クリスマスカード・名刺を参加者自身が作り、持ち帰りました。

参加者の皆さんも、ゆっくりと作品づくりに打ち込んでいるように思われました。合わせて、プロジェクトで上映したメンバーの作品も力作ぞろいでした。

パソコン連絡会も13グループと増え、ますます腕を上げています。



季節がら年賀状作りを楽しみにしている方も多ようです

こころとからだを癒す色彩ワークショップ

～明るい未来のためのセルフケア～

NPO法人けやきの会

今回初めてフォーラムに参加いたしました。様子がわからず、戸惑いながらの実施でした。このワークショップで、少しでも日ごろの疲れを癒していただくことができれば…と思い、どなたでもご参加いただけるよう、フレキシブルな設定にしてみました。

お帰りになる皆様の笑顔が、いらしたときより柔らかく感じました。

「気持ちよかったです」「楽しかった」との感想に、私たちも力をいただきました。

ご参加いただいた皆様に感謝しつつ…



パステルを使って、色彩のもつ癒しの力を体験していただきました

簡単木工

夢ボックス

今年初めてワークショップに参加しました。

興味があっても木工をする機会がない女性の方々に体験してもらいたかったので、どんな内容で受講していただくのが良いのかを考えました。

そこで、今回はいろんな使い方ができる小物を作っていました。参加者は限られた時間内で、作品を完成することができ、喜んでいらしたのでよかったです。できれば、今後も参加していきたいと思えます。



普段は使わない大工道具や電動工具を手に皆さん頑張っています

お茶席

和文化研究会俱々楽

お茶席を設け、茶道の心得がない方にもお茶をおいしく楽しめるよう企画しました。講師からお茶のいただき方やお道具などの説明を受けながら参加して頂きました。気軽なお茶席でしたので、お客様同士や講師との会話がはずんだお席になったようです。「緊張しないお茶席でよかった」「お茶って苦いと思っていたがそうではなく、とてもおいしかった！」という声や、前日のグリーンプラザでの活動発表会の感想なども頂き、たいへんごやかな席になりました。



気軽に楽しくお茶体験



かわいい作品が安く買えて嬉しい!



たまちゃんのバルーンアートが来場者をお出迎え♪



女性センター 会場風景

登録団体・市民団体の皆さんが日頃の成果を披露しています。



どの作品にも努力のあとがみえて素晴らしい☆☆☆



毎年いろいろ工夫されていて、いつも楽しみ～



【府中市男女共同参画推進フォーラムとは】

昭和63年2月の第1回女性フォーラム以来、男女共同参画社会の実現と女性問題の解決を目的として毎年開催。地域の人々が集い、学習し、行政と共に問題を認識し歩み出す「きっかけの場」となっています。第16回目からはイベント名を「男女共同参画推進フォーラム」に改称し、今年も女性センター登録団体や市民等で構成する実行委員会と女性センターが協働して企画、運営を行っています。



シンボルマーク・青く輝く希望の星を各部屋に男女共同参画都市宣言とともに掲示

広報活動の記録



ポスター A2



笑顔の万国旗
女性センターの通路やロビーいっぱい笑顔の万国旗があふれました



イクメンツリー
おとうさんと子供たちのツーショットを募集
笑顔あふれる写真が集まりました



立て看板



当日プログラム (A3 三折りチラシの外面と中面)

フォーラム開催の歴史

第1～15回は女性フォーラム

回	テーマ	会場	日時	委員長	副委員長
1	私たちのあしたは… 新しいつながりを求めて	市	S63.2.14	佐野春江	荒木和子・佐藤法恵
2	女も男も自分らしく生きるために	グ	H元.1.29	田代由美子	佐野春江・森 和子
3	話しましょう、始めましょう	グ	2.2.4	森 和子	右田房子・田代由美子
4	話し合おう！21世紀に向かって -よりよく生きるために-	グ	2.12.2	荒巻ちず	赤羽美樹子・森 和子
5	行動しよう参加から参画めざして	グ	3.11.23・24	関 和子	荒巻ちず・矢島千里
6	まず気づこう 暮らしの中から -わたしたちは本当に自由になったか-	グ	4.11.22	矢島千里	関 和子・横山永望
7	かわれ!府中の男たち うごけ府中の女たち	グ	5.11.28	和田安里子	岡本千賀子・中山節子
8	つくられた女から創る女へ いま、私たちの歩みは止められない	グ	6.11.20	金指光恵	三輪寛子・近藤キミ子
9	明日の自分を見つめよう！	女	8.2.17	浅田多津子	金指光恵・浅野明子
10	出会うこと、学ぶことから始まる ”ジェンダー・フリーって何？”	女	9.2.22・23	佐藤法恵	漆原みつほ・三輪寛子
11	ジェンダーからジェンダーフリーへ 女と男(わたしとあなた)同じステージで輝き い！！	女	10.2.14・15	漆原みつほ	佐藤法恵・須藤春子
12	キテ・ミテ・ハナソー 女(ひと)と男(ひと)との素敵な関係	女	10.12.5・6	岡崎妙子 白井紀子	佐藤法恵・鈴木恒代 矢島浩志
13	男女共同参画都市宣言記念式典 男女共同参画年宣言記念フォーラム 行動しよう 参加から 参画めざして	文 女 女	11.11.19 20・21 12. 3.11	小西厚子	岡崎妙子・丸山陽子 池田房江
14	ともにつくろう わたしたちのまち 「井戸端会議しませんか」	女	12.12.2・3	鈴木恒代	西橋結花・和田安里子
15	ともにつくろう わたしたちのまち	女	13.12.1・2	小西さつき	加藤礼子・鈴木恒代 榎 初代
16	ともにつくろう わたしたちのまち	女	14.12.6・7	佐藤法恵	鈴木恒代
17	見つけませんか ともに生きる未来を！	女	15.12.6・7	田代由美子	納村万智栄・丸山陽子
18	素敵に生きよう男と女 ～私の力活かせる社会へ～	女 グ	16.12.11・12 12.11	岡崎妙子	鈴木和代・矢島浩志
19	おーい！！ 来たら何かが変わるよ	女	17.11.28・12.4	岩崎真弓	鈴木恒代・穂積菜絵子
20	「私のジェンダー調理法」 ～男は仕事、女は家庭？～	女	18.11.25・26	穂積菜絵子	五座麻紀子・佐藤麻美

回	テーマ	会場	日時	委員長	副委員長
21	いまの世の中なんか変?! ～Let's Do it now～	女	19.12.1・2	笠井直美	黒澤淳子・浜田広美
22	チェンジ! 輝くひとへ	女	20.11.29・30	井沢サト子	岡崎妙子・積 優子
23	くらのみからみこしをあげよう!	女 グ	21.11.28 ・29	前川浩子	秋山由美子・矢島千里
24	ワーク・ライフ・バランス どう生きる?どう働く!私たち	女	22.11.6・7	桜井洋子	石川伊知朗・漆原みつほ
25	ポスト3.11 本当の「豊かさ」って?	女	23.11.26・27	漆原みつほ	小野資子・鈴木和代
26	希望をもって だれとつながる みんなとつながる	女	24.12.1・2	鈴木和代	漆原みつほ・藤井加津子
27	今ッ!つながれば つよくなる	女	25.11.30・12.1	藤田恵美	榎本久美子・村山鑑恵
28	伝えあおうよ 私たちの未来	女 グ	26.11.21・22・23 11.22	藤田恵美	榎本久美子・村山鑑恵

※会場 市=市民会館 グ=府中グリーンプラザ 女=府中市女性センター 文=中央文化センター

参加・協力団体

※=市内の団体

《講演会》

サークルいきいき
日本婦人有権者同盟府中支部
たすけあいワーカーズぼぼ※
新日本婦人の会府中支部
東京農工大学女性未来育成機構※
市民活動研究会
府中ネット

《ワークショップ団体》

認知証予防ネット東京府中
ものづくりの輪プロジェクト※
スマワークス※
洋裁クラブ・ソーイングクラブ
古布あそび
チョウールール※
ベビーマッサージサロン tete※
ラウレア手芸部※
日中交流講習会
渋
苹果の会※
おはなし夢くらぶ
親子ワーク※
ポッポの会
つくしの会
ウィメンズアクション府中

パソコン連絡会
NPO 法人けやきの会
夢ボックス
和文化研究会俱々楽

《作品展示・パネル》

絵手紙の会ゆめえる
おさんぽ
On Flower
木目込人形の会
けやき消費者の会
香彩会
古布あそび
サークルいきいき
彩画会
住吉華洋会
ソーイングクラブ
千野クラブ
なぎさ会
パソコン FJC
パソコンさくら
パソコンチューリップ
パソコンどんぐり
パソコン8-2
パソコン花水木
パソコンパラパラ
パソコンひまわり

パソコン府中 WPC 会
パソコンふみづきの会
パソコンもくれん
花版画の会
府中孔友
府中ネット
府中年金者組合女性部きすげ会
ヘルスメイト府中 21
洋裁クラブ
らんだむ☆個別

《グリーンプラザ》

3B健康体操
パソコン府中WPC会
府中市女性史の会
府中市聴覚障害者協会女性部
和文化研究会俱々楽

《協力会社等》

(株)青木屋
(株)伊藤園
大塚製薬(株)
キューピー(株)
東京ホールセール(株)
東京ヤクルト販売(株)
(公社)むさし府中青年会議所
(株)ライフコーポレーション

フォーラム実行委員会から一言

漆原 みつほ

実行委員として三日間受付を担当。初めて全体の流れを知るいい経験を。

同時に、登録団体員として身体倫理の危機を上映と講座で。PC クラブでは古典をテーマに創作を。このような活動のできる「場」に感謝です。

榎本 久美子

私は、けやきホールでの登録団体発表と育メン企画を中心に活動しました。

出演した方々がステージの上でイキイキと輝いていたのがとても嬉しかったです。みんなが輝くことで男女共同参画が広がると信じています。

田鍋 浩美

初めて企画から開催に至るまでの作業に携わり、テーマに沿ったものをつくりあげることや、1人でも多くの人に興味をもって参加してもらうことの大切さと難しさ、フォーラムの果たすべき役割を考える日々でした。

土方 美智子

市制 60 周年、女性センター開設 20 周年の年に委員として、精一杯の協力ができたのかと思い、責任を感じています。委員長の采配と努力に感銘し、日頃の活動と違った分野を学べた有意義な体験をありがとうございました。

藤井 加津子

2 回目の実行委員ですが、より手作り感を味わうことができたフォーラムでした。とてもいい経験をさせていただきました。かかわった全ての人に感謝します。



藤田 恵美

人との出会いがいくつもあって、学ぶことがたくさんありました。フォーラムに関わってくださった皆様、ありがとうございました。

古屋 よし子

登録団体連絡会のフォーラム担当で初めて参加しましたが、内容がまったく分かりませんでした。毎回会議に出て内容がみえてきたのが後半になってからでした。

本当に大変な思いもしたけれど、貴重な体験もできました。

村山 鑑恵

長丁場の周年行事、完成度は？と自問すると難しい点もあるが、素人&少人数でよくがんばったと自分たちをほめたい。

新しい試みにリスクはつきものだが、今回の経験を糧に今後も恐れずに挑戦していきたい。

柳田 朋子

委員会の活動内容の素晴らしさと登録団体の真摯な活動に感銘を受けました。

また、記録誌の文章校正など、日頃ではおよびもつかない作業を体験できました。皆様と仲良く楽しく過ごせたことに心より感謝申し上げます。

横山 永望

実行委員みんなの努力で、けやきホールでの大きなイベントを成功裏に終えてやれやれです。

男女共同参画推進フォーラムの開催意義が参加された人たちにどのくらい伝わったかな！

フォーラム実行委員会等開催記録

1	3月24日	第1回実行委員会	自己紹介 委員長以下役職決定 開催日決定 部会の設置と担当委員決定 ポスター公募しないと決定
2	4月11日	第2回実行委員会	今年度のスケジュールについて協議 市民団体の参加決定 基調講演についての提案・意見を協議 グリーンプラザの使用を決定
3	5月2日	第3回実行委員会	キャッチフレーズを「伝えあおうよ 私たちの未来」に決定 グリーンプラザのイベント内容について協議 登録団体の発表と出店、企業への協力依頼について検討
4	6月17日	第4回実行委員会	参加希望団体の確認 予算について協議 グリーンプラザでの「みんなの基調講演(仮)」のパネラーと コーディネーターの候補者について協議
5	7月5日	調整会	今年度フォーラムの概要説明 講師謝礼・チラシについて 参加希望団体の内容確認 7団体の講演会の会場・時間の決定 グリーンプラザでの発表団体の確認
6	8月8日	第5回実行委員会	調整会の報告 ポスター・プログラムのデザイン決定 育メン企画・抽選会の提案 ウィッシュツリー・万国旗の実施 について 基調講演のパネラーについて説明
7	9月13日	調整会	発表部門の部屋割り・展示部門の展示場所の決定 市民団体参加について説明
8	9月13日	第6回実行委員会	調整会の報告 当日の流れについて協議 みんなの基調講演(仮)の企画名の決定 予算内訳の修正
9	10月10日	第7回実行委員会	当日の会場装飾・抽選会について協議 開会式についての説明 予算内訳の修正
10	11月5日	第8回実行委員会	当日の流れを確認 当日までの準備と役割分担の確認
11	11月15日～23日 登録団体展示 11月21日～23日 府中市男女共同参画推進フォーラム 11月22日 基調講演 登録団体発表会 他 (府中グリーンプラザげやきホール)		
12	12月12日	第9回実行委員会	参加人数・アンケートの集計 フォーラム全体の反省 記録誌について今後の作業確認 来年度のフォーラムに向けての提案
13	3月予定	第10回実行委員会	記録誌完成報告

男女共同参画都市宣言

わたしたちは歴史にはぐくまれたふるさと府中を誇りとし、性別を超え、世代を超えて、互いに人として尊重し合いいきいきと輝くまちをつくり続けるために「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 わたしたちは 男女が共に 社会のあらゆる分野に平等に参画するまちをつくります
- 1 わたしたちは 一人ひとりが自立し 認め合い 心豊かに暮らせるまちをつくります
- 1 わたしたちは 職場・地域・家庭において 男女が共に責任を分かち合うまちをつくります
- 1 わたしたちは 国際社会の一員として 平和を愛するまちをつくります

平成11年11月3日

府 中 市

第28回府中市男女共同参画推進フォーラム記録誌

編集&発行 府中市・第28回府中市男女共同参画推進フォーラム実行委員会

発行日 平成27年3月

連絡先 スクエア21・府中市女性センター

〒183-0034 府中市住吉町1-84 ステータ府中中河原4階

電話 042-351-4600 FAX 042-351-4603